

平成 19 年度

佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

平成 20 年 5 月

大学教育委員会

FD 専門委員会

はじめに

佐賀大学「学生による授業評価」の実施は平成 19 年度で 8 年目を迎えます。平成 18 年度後学期からは大学院の授業科目も含め、全ての授業科目で授業評価アンケートを実施することとなりました。その結果、本年度は学部における実施率は 80%を超え、研究科でも 70%を超えるまでになりました。この実施率は授業評価アンケートを行うことが当然であると考える教員が増加したことを物語っています。しかし、この状況は他の大学でも同じです。全国の国公立大学のほぼ 9 割近くが授業評価を実施しており、実施率も高く推移してきています。今後の課題は、授業評価の結果をどのように授業改善に活用するかに移ってきています。現在では授業評価のアンケート結果を基に授業改善を行っている大学は全体の 50%以下であり、必ずしも活かされているとは言いきれません。一方、平成 20 年 4 月からは学部教育において FD の義務化がはじまり、大学教育は大きな局面を迎えようとしています。従来のようにアンケートさえ行っていれば良いと言うことではなく、如何にその結果を活用しているのかが大学評価の焦点となりつつあります。

本学は昨年度より授業評価結果を用いた授業改善を実施するために、各学部等に組織別授業評価を行うことを義務付けてきました。評価の高かった科目の選考や授業改善への取り組み状況、次年度へ向けた授業改善の目標などを各学部は大学教育委員会に報告しなくてはなりません。また、各教員には個別授業点検・評価報告書の提出が義務づけられ、6 割近くの教員が報告書を提出しています。授業評価アンケートの実施率上げると共に、今後は組織別授業評価の実施を徹底させ、個別授業点検・評価報告書の提出率を上げることを目的としています。本学の教職員の方々には今まで以上にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

国立大学法人 佐賀大学 大学教育委員会委員長
田代洋丞

目次

はじめに	1
I. 経過	3
II. 実施状況	4
III. 授業評価アンケートの結果と分析	
III-(1) 学部等別の結果と解析	1 1
III-(2) 研究科別の結果と解析	2 3
III-(3) 授業内容及び授業方法, 教員の対応と満足度の関係	3 2
III-(4) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準	4 5
IV. 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点	4 8
V. 次年度の授業改善目標	5 2
おわりに	5 5
資料1 項目の基礎集計表	5 6
資料2 授業評価結果を用いた授業改善実施要領	7 0
資料3 佐賀大学学生による授業評価実施要領	7 1
資料4 学生による授業評価アンケート様式	7 3
資料5 共通様式以外のアンケート様式	7 5
資料6 教員, 授業科目別アンケート集計様式 (レーダーチャート)	7 8

I. 経過

佐賀大学では平成12年度前学期の「学生による授業評価」の試行的実施を経て、同年度の大学教育委員会で承認された「授業評価実施要領」に基づき平成13年度より本格導入に至っている。さらに佐賀医科大学との統合後には、佐賀大学大学教育委員会(平成15年11月26日開催)で「学生に対する授業評価システムに対応する専門委員会」の設置が承認され、継続的に実施する体制が整えられた。法人化後の平成17年度には「授業評価実施要領」を一部改訂し、従来の教員による選択的実施を改め、講義科目(演習, 実験, 少人数ゼミを除く)を対象に共通アンケートによる100%の実施を目標に活動を続けてきた。しかしながら、実施率は低迷を続け抜本的な改革が必要と考えられ、翌平成18年度後学期より全ての授業科目(大学院も含む)を対象に授業評価を実施することが定められた「佐賀大学学生による授業評価実施要領」(平成18年10月1日施行)が新たに制定された。この「佐賀大学学生による授業評価実施要領」(以下、授業評価実施要領とする)は実施基準を各学部等が設定できる点が特筆される。すなわち、少人数クラスや複数担任の科目では共通アンケート様式にはそぐわないため、独自に用意したアンケートを用いることを可能としている。そのため佐賀大学の全ての授業科目において基本的に共通アンケートもしくは独自アンケートによって学生の意見を聴く機会が設けられていると言えよう。また、アンケート結果の教員へのフィードバックについても全学平均や学部平均との比較をレーダーチャートに示し、自らの授業改善に活かせるような工夫が施された。さらに、この授業評価アンケート結果に基づき、自らの授業の改善点について、各教員は授業点検・評価報告書の提出が義務づけられた(授業評価結果を用いた授業改善実施要領 平成18年12月22日施行)。一方、この授業評価アンケートと並行に学生対象アンケートも実施され、佐賀大学の教育目的, 施設, 教育システム全般にわたって広く学生の声を取り入れようとする試みも行われた。さらには教員対象アンケートや卒業生対象アンケートも実施され、佐賀大学における教育活動を多面的に分析する準備を整備しつつある。

本報告では平成19年度前学期に実施した授業評価アンケートの結果および授業評価結果を用いた授業改善実施要領(以下、授業改善実施要領とする)に基づいた佐賀大学の授業改善への取り組みについて述べる。なお、医学部については、授業形態の差異に配慮し独自の様式を用いた。

II. 実施状況

平成19年度に佐賀大学で行われた授業評価は共通のアンケート用紙を用いて行っており、共通様式を用いない授業評価の実施も認めている。そこで、授業評価アンケートの結果を述べる前にアンケートの実施方法及び実施状況について整理しておきたい。

まず、授業評価アンケートの種類について述べる。本年度の実施した授業評価アンケートは以下の3つに大別される。

- 1) 授業評価アンケート（共通様式）
- 2) 個別授業評価アンケート
- 3) 医学部授業評価アンケート

このうち本報告書では1)と3)のアンケート結果について取り扱う。医学部は統合前の佐賀医科大学時代から先進的なFD活動を展開しており、授業評価アンケートも科目種毎に分けて実施し、詳しい解析が行われているので本報告では共通様式の授業評価アンケートの参考として述べるに留める。

次に、本年度の授業評価の実施率について述べる。医学部・医学研究科を除いて前学期における授業評価アンケートの実施数は1439件、後学期の実施数は1675件であり、それぞれ実施率として表せば78.8%と81.7%になる。ただし、この実施数には同じ科目を分担している教員がそれぞれ授業評価アンケートを行った場合も含まれているため、実際の実施率は僅かに低く推移するものと考えられる。この実施率は平成18年度の後学期とほぼ同じと考えて良い。表1に部局毎の実施率をまとめた。集計は2月末時点であるので、3月に行われている集中講義や実習科目に関してはアンケートを行っているもののこの一覧表には反映できていない。

表1 部局別の授業評価アンケート実施率(独自形式アンケートは除く).

	平成 19 年度前学期			平成 19 年度後学期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	401	454	88.3	430	525	81.9
経済学部	128	170	75.2	149	185	80.5
医学部	78	78	100.0	68	71	95.8
理工学部	235	264	89.0	312	371	84.1
農学部	86	150	57.3	118	147	80.3
教養教育運営機構	373	401	93.0	304	342	88.9
教育学研究科	67	88	76.1	114	160	71.3
経済学研究科	19	27	70.3	30	31	96.8
医学系研究科	34	34	100.0	79	103	76.7
工学系研究科	94	199	47.2	162	214	75.7
農学研究科	36	73	49.3	56	75	74.7

(前学期):授業評価システム入力科目数(ただし,通年科目一部を除く.)

(後学期):授業評価システム入力科目数

表2 部局別の独自形式アンケートの実施率

	平成 19 年度前学期			平成 19 年度後学期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	1	454	0.2	0	525	0
経済学部	32	170	18.8	35	185	18.9
医学部						
理工学部	3	264	1.1	3	371	0.8
農学部	0	150	0	0	147	0
教養教育運営機構	1	401	0.2	3	342	0.9
教育学研究科	0	88	0	0	160	0
経済学研究科	8	27	29.6	1	31	3.2
医学系研究科						
工学系研究科	8	199	4.0	9	214	4.2
農学研究科	0	73	0	0	75	0

(注)対象数は表2と同じであるとして算出した.

表2に共通アンケート用紙を用いていない授業評価アンケート（つまり、独自形式アンケート）の実施率を示した。独自形式アンケートは受講者が極端に少ない場合や複数の教員が担当している場合など、マークシート方式の共通アンケートにはそぐわない場合に実施する授業評価と位置づけられている。科目としては少人数での実験、教育実習、ゼミなどが該当すると考えられる。実際実施した部局は文化教育学部、経済学部、理工学部、教養教育運営機構と経済学研究科、工学系研究科であった。学部での実施率は経済学部の18.9%が最も大きく、科目数では35科目に達する。一方、大学院では経済学研究科の実施率が29.6%に達している。なお、資料には本庄地区で実施されている共通アンケートを用いていない医学部のアンケートも示してある。医学部は科目の授業形態毎にアンケート項目の設定を変えており、本庄地区で実施されている共通アンケートよりも細やかな配慮がみてとれる。

個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名

授業評価実施要領(資料3)によれば、共通アンケートもしくは独自形式アンケートによって全ての科目の授業評価を実施することが定められている。しかしながら、現実にはこれらの授業評価アンケートを実施していない授業科目が多数存在する。授業改善実施要領(資料2)に基づき、各教育組織から提出のあった個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名を以下に掲載する。今後、各教育組織には以下に示した授業科目数を少なくすべく適切な対応が望まれる。

なお、医学部・医学系研究科については授業評価実施要領および授業改善実施要領に該当していないために掲載していない。ただし、表2に示すように実施していない科目は少なく、学科長が個々の教員に授業評価についてコメントする取り組みが行われており、医学部以外の学部よりも授業改善についての取り組みは進んでいると考えられる。

<文化教育学部>

コンピュータソフトウェア、スポーツIA3、スポーツIA4、スポーツIB2、スポーツIB3、スポーツID4、スポーツIIA4、スポーツIIB2、スポーツA1演習、スポーツB2演習、スポーツD4演習、スポーツ経営学、スポーツ工学、スポーツ測定評価、ドイツ語10、ドイツ文学史、フィットネス、プラトン哲学II、フランス語10、フランス文学理論演習、プログラミング演習I、プログラミング演習II、医学一般、運動処方、英

語学演習 I，英語学演習 II，英米文学講読 I，応用デザイン，応用染織工芸 I，
応用日本画，回路理論，学校・学級経営論，環境化学実験 I，岩石鉱物学，基礎
日本画，幾何学研究基礎，幾何学研究基礎，幾何学領域研究 II，幾何学領域研究
II，機械工学実習，技術科教育法 I，技術科教育法 II，救急処置，教育学研究法，
教育学講読演習，教育基礎論，教育原論，教育心理学，教育心理学，教育相談，
教育方法学概説，教科教育授業設計論，教科教育情報論，教職概説，教職概説，
近代欧米文学論 II，金工工芸，金属加工学，健康福祉論，現代教育論，現代教育
論，現代教育論，個別指導計画作成演習，古環境学，古環境学実験，古墳文化研
究演習，工業力学，工芸科教育法 I，工芸科教育法 II，行草法，国語科教育課題
研究 I，国際経済論演習 I，国際文化論，栽培学，視聴覚教育，児童福祉論，社
会科教育課題研究 II，住環境材料工学，初等国語科教育法 II，初等理科教育法
I，書写 II，書道科教育法，書道史，小学体育 I，小児医学，障害児保健学，障
害者福祉論 I，情報科教育法 I，情報科教育法 II，情報技術教育課題研究，情報
処理演習 I，情報処理演習 II C，心身医学，心理学，心理学研究法，数学科教育
法 I，数学科教育法 II，数学科教育法 III，生活科教育法，生活文化論，生徒指導
論，生物学通論 II，西洋古代哲学演習 II，西洋史要説，専門教育外国語 I，専門
教育外国語 I，専門教育外国語 I，専門教育外国語 I，専門教育外国語 I，専門
教育外国語 II，専門教育外国語 II，専門教育外国語 II，専門教育外国語 II B，総
合演習，総合演習，総合演習，総合演習，総合演習，総合演習，総合演習，地学
基礎実験 I，地学基礎実験 II，地学通論 I，地学通論 II，地学通論 III，地学通論
IV，中国語 10，中等音楽科教育法 II，中等家庭科教育法 I，中等国語科教育法
I，中等国語科教育法 II，中等国語科教育法 III，中等社会科教育法 I (社会・地
歴)，中等社会科教育法 II (社会・地歴)，中等社会科教育法 III (社会・公民)，中
等社会科教育法 IV (社会・公民)，中等美術科教育法 I，中等美術科教育法 II，中
等美術科教育法 III，中等理科教育法 I，中等理科教育法 II，中等理科教育法 III，中
等理科教育法 IV，中等理科教育法 V，中等理科教育法 VI，朝鮮語 10，哲学要論
II，電気基礎実習，電気数学，電磁気学，日本の言語と文化，日本画，日本語史
演習 I，日本語史演習 I，乳幼児心理学，発達神経心理学，保育内容の研究(環
境 II)，保育内容の研究(健康)，保育内容の研究(表現 I)，保健体育科教育法 I，
保健体育科教育法 II，保健体育科教育法 III，幼児教育課程論，臨床教育学，楷書
法，篆隸法

<経済学部>

福祉社会論(非常勤)

国際経済法Ⅰ(非常勤)

演習 13科目(履修者数0のため)

<理工学部>

放射線物理学、情報と職業(集中講義)、知的財産権法、機械システム学外実習、測量学実習、構造力学基礎、構造力学基礎演習、都市環境性能論

<農学部>

(前学期、旧カリキュラム)

経営管理情報学

化学実験

熱帯作物学実験実習Ⅰ

生産情報工学

生産情報工学演習

生産施設工学

植物栄養学

食料安全学

食品衛生学Ⅱ

農業科教育法Ⅰ

(前学期、新カリキュラム)

環境植物学

環境化学

農学概論(留学生向け)

(後学期、旧カリキュラム)

熱帯作物学実験実習Ⅱ

生産情報工学

材料施工学

地域調査法演習Ⅱ

熱帯作物改良学演習Ⅱ

同位元素利用論

(後学期、新カリキュラム)

環境水理学演習Ⅱ

農学演習(留学生向け)

<教養教育運営機構>

大学入門科目(5クラス)

英語で学ぶ佐賀学(前学期・後学期)

芸術と表現(有田焼入門)

現代の環境問題(アジアの大都市の都市開発と環境)

現代の法と社会(生活と法)

生命と物質(蛋白質の構造・機能)

セラミックスの不思議(前学期・後学期)

プラズマ・放電の科学 -オーロラから

環境まで-

わかりやすい機構学(前学期・後学期)

気象と農業

植物と環境

知的財産学

英語(3クラス)

ドイツ語Ⅰ

ドイツ語Ⅱ	インキュベート研究
中国語Ⅱ(2クラス)	チャレンジ佐賀学
スポーツ実習(8クラス)	合宿共同授業(九州地区国立大学)
情報基礎演習Ⅰ(2クラス)	身近な環境—知ろう・見よう・考えよう—
情報基礎演習Ⅱ	人間社会とコミュニケーション(前学期・
21世紀のエネルギーと環境問題	後学期)

<教育学研究科>

デザイン特別演習, 運動学特別演習, 運動学特論, 運動生理学特別演習, 運動方法学特別演習(特), 運動方法学特別演習(監), 運動方法学特論(監), 英語課題研究, 英語教育課題研究, 英米文学特別演習(特), 英米文学特別演習(監), 英米文学特論(特)B, 英米文学特論(監)B, 火山岩岩石学特別演習, 火山岩岩石学特論, 絵画特別演習(監), 学校・学級経営学特別演習, 学校・学級経営学特論, 学校教育課題研究, 学校教育課題研究, 学校教育課題研究, 学校教育課題研究, 学校保健特別演習(監), 幾何学特論(特), 幾何学特論(監), 技術教育課題研究, 教育方法学特別演習, 教育方法学特論, 教育法制特別演習, 健康運動実践方法学特別演習(監), 健康運動実践方法学特論(監), 工芸教育教材特論, 国語学特論(特), 国語教育課題研究, 国語教育学特別演習, 国語教育学特論(特), 国際経済学特別演習, 国際経済学特論(監), 肢体不自由者生理学・病理学研究, 実践授業研究, 実践授業研究, 実践授業研究, 実践授業研究, 実践授業研究, 実践授業研究, 社会科教育課題研究(社会・公民), 社会科教育課題研究(社会・地歴), 社会科教育学特別演習(特)(社会・地歴), 人権教育特論, 知的障害者生理学・病理学研究, 地球史特別演習, 地球史特論, 統計学特論, 道德教育特論, 日本教育史特論, 日本史特論A(特), 発達心理学特論(特), 美術・工芸課題研究, 美術教育教材特別演習, 美術教育特論, 保育学特別演習, 保健体育課題研究, 保健体育教育学特論(企), 理科教育学特別演習(監)

<経済学研究科>

9科目(いずれも履修者数0)

<工学系研究科>

(特別研究を除く)

高エネルギー物理学 I, 高エネルギー物理学 II、機械システム工学専攻の14の講義科目、構造解析プログラム論、環境と人間社会、地盤防災工学特論

<農学研究科>

(前学期)

海洋生物資源化学特論

アグロサイエンス特論

作物生産学特論

植物栄養調節学特論

生産情報処理学特論

農村地理学特論

(後学期)

害虫制御学特論

応用遺伝資源学特論

作物生態生理学特論

Advanced Molecular Biology(留学生向け)

Advanced Productive Function of Land(留学生向け)

(通年)

資源社会管理学特別演習

生産生物学特別演習

生物工学演習Ⅱ

アグロサイエンス特別演習(留学生向け)

Ⅲ 授業評価アンケートの結果と分析

平成19年度に佐賀大学で実施した授業評価アンケートは3種類ある。独自形式アンケートに関しては統計処理を行うのに適していないため、ここでは授業評価アンケートおよび医学部授業評価アンケートについてのみ取り扱うものとする。

また、分析するアンケート項目は授業評価アンケートのもののみとして、医学部授業評価アンケートに準ずる項目が設定されている場合についてのみ言及することとする。なお、医学部は前学期、後学期とする学期制ではなく、フェーズに分けた期間を用いているため年間結果を用いた。ただし、科目毎にアンケート様式が若干異なるので講義科目、実習科目、PBL科目とそれらを総合した全科目に分けて表示した。

Ⅲ-(1) 学部等別の結果と解析

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

図1に出席率に対する学生の回答を示す。前学期と後学期では全体的な傾向に差は認められない。すなわち、農学部と理工学部の学生が最も高い出席率を回答しており、教養教育運営機構、文化教育学部、経済学部の順に出席率が低下する傾向が認められる。特に経済学部では前学期・後学期ともに出席率が60～80%と回答した学生が学部内の20%を超えている。文化教育学部や教養教育運営機構でも出席率が60～80%と回答した学生がそれぞれ15%に達している。医学部では実習科目において出席率が高いものの、講義科目やPBL科目では出席率が低くなる傾向がある。特にPBL科目では40%ちかくの学生が低い～中間と回答している。

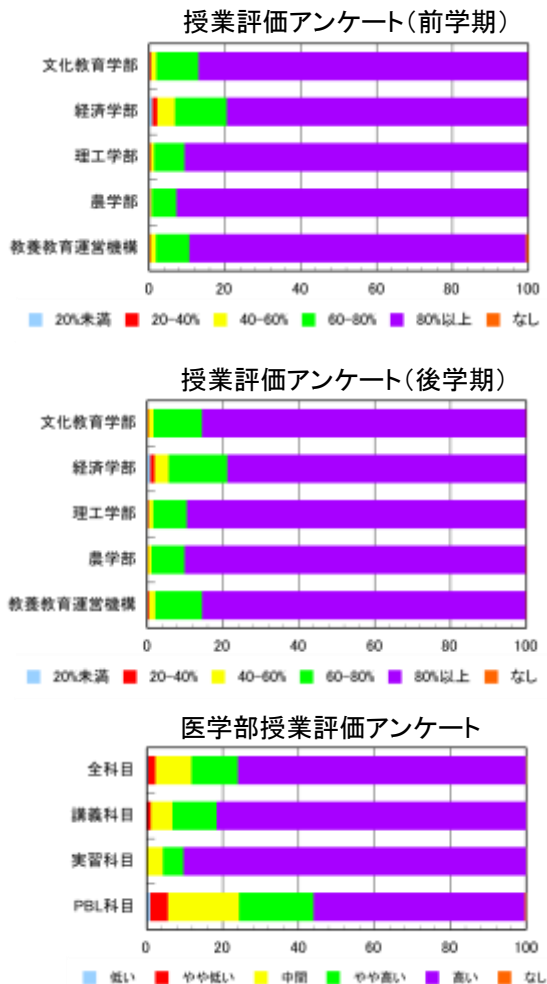


図1 出席率はどのくらいですかに対する回答

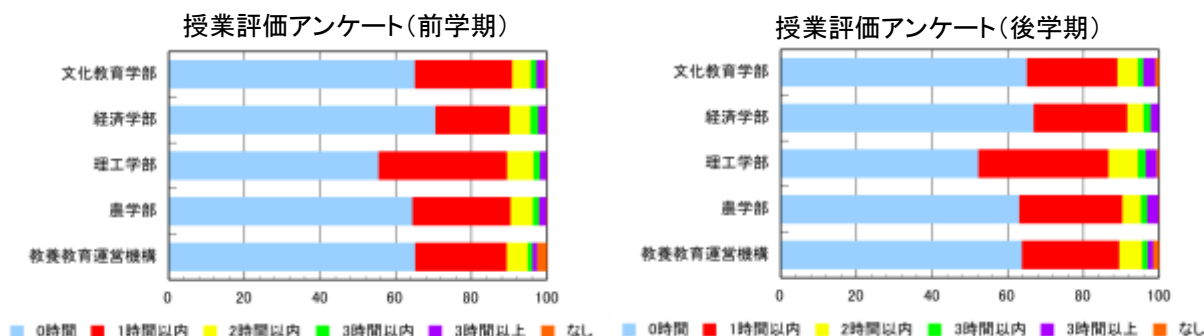


図2 予習を毎週どの程度していますかに対する回答

A-2 予習をどの程度していますか

図2に予習時間についての回答結果を示す。予習時間を0時間と回答した学生の比率は経済学部で最も多く前学期、後学期とも60～70%に達している。文化教育学部、農学部、教養教育運営機構でも60%を超えるほぼ同程度の比率を示しており、理工学部のみが60%を下回っている。この傾向は平成18年度後学期のアンケート結果とまったく同じである。一方、3時間以上の予習をしていると回答した学生の比率は前学期においては文化教育学部(2.3%)、経済学部(2.1%)、農学部(1.9%)、理工学部(1.8%)、教養教育運営機構(1.3%)の順に減少する。後学期では、文化教育学部(3.2%)、農学部(3.0%)、理工学部(2.9%)、経済学部(2.2%)、教養教育運営機構(1.5%)の順であった。ここで興味深いのは、前学期に比して後学期の方が3時間以上の予習を行う学生の比率が全ての学部で増加している点である。

A-3 復習をどの程度していますか

この質問項目に関しては医学部授

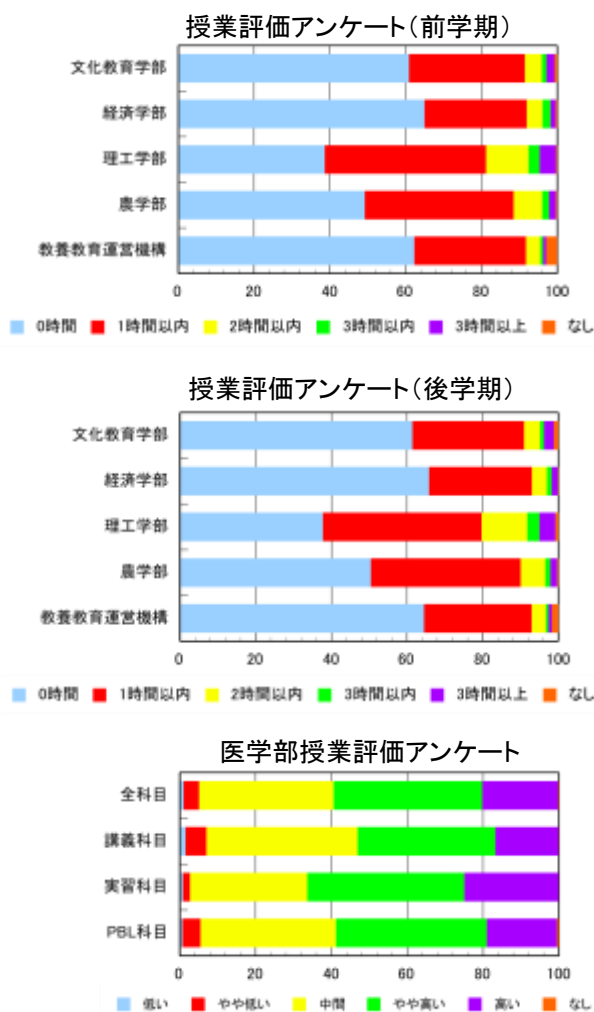


図3 復習を毎週どのくらいしていますかに関連する項目への回答

業評価アンケートにも該当するので図3に併せて示す。該当項目は医学部授業評価アンケートの「復習や関連事項の自己学習の程度」である。毎週の復習時間が0時間と回答した学生の比率が最も多いのは前学期・後学期ともに経済学部であり60%を超えている。同様に60%を超えている組織として文化教育学部と教養教育運営機構があげられる。これらの傾向は平成18年度後学期のアンケート結果と全く同じである。理系である農学部や理工学部では復習時間を0時間と回答した学生の比率は50%以下になっており、特に理工学部では40%を下回る。逆に3時間以上と回答した学生の比率は理工学部や農学部が大きい特徴が認められる。この傾向は平成18年度のアンケート結果と同じである。一般に復習を行う授業科目は実験や実習が多いと考えられるため、それらの科目を多くもつ理系学部の学生ほど復習をよく行っている実態を反映しているのであろう。医学部では実習科目において復習や自己学習を行った比率が大きく、PBL科目や講義科目では比率がやや低くなる傾向が認められる。これは先に述べたように実験・実習科目で復習が一般的に行われて

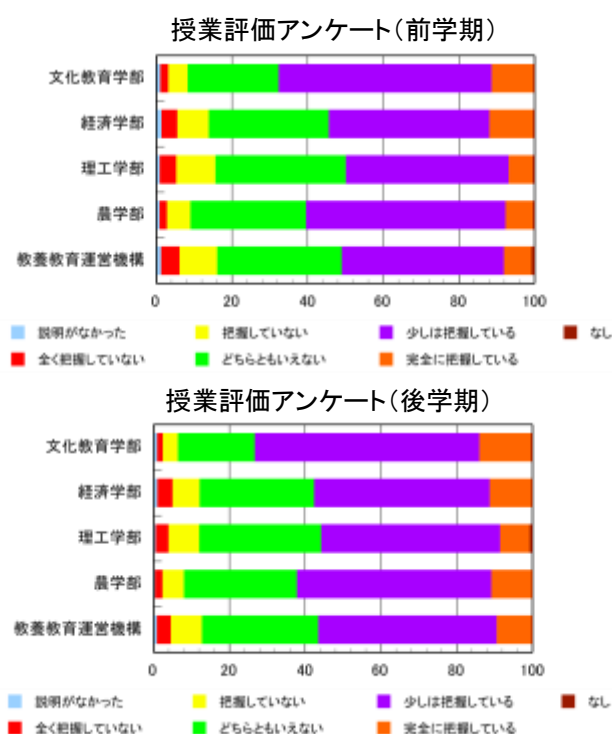


図4 この授業の学習目標を把握しているに対する回答

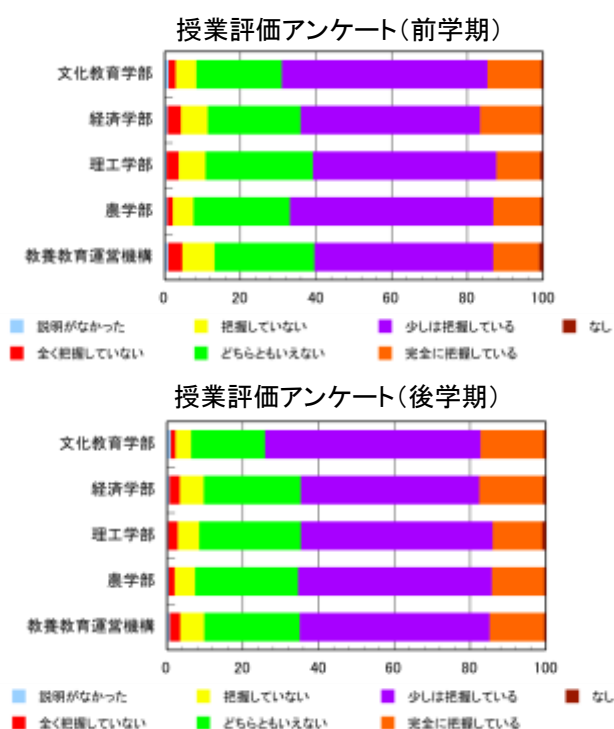


図5 この授業の成績評価基準を把握しているに対する回答

いる実態と矛盾しない。

A-4 この授業の学習目標を把握している

大学教育においては教育の質の向上を図り、努力することが義務づけられてきた。その指標のひとつとして受講者に学習目標を把握させているか否かが問われている。

図4にその結果を示す。前学期では「全く把握していない」、「把握していない」などの否定的回答の比率は教養教育運営機構、理工学部、経済学部で高く、農学部や文化教育学部で低い傾向がある。この傾向は後学期も同様である。逆に「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的意見の比率は文化教育学部で高く70%近くに達している。次いで農学部が高く、教養教育運営機構、理工学部、経済学部で50%以上の比率を示している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

この項目も大学の教育として当然達成しているものとして設けられたものである。図5に結果を示す。科目毎に尋ねているため、より高い精度での回答であると考えられる。前学期では「全く把握していない」、「把握していない」とする学生の比率は教養教育運営機構と経済学部でやや高いものの15%を下回っている。他の学部は10~15%を推移している。逆に「少しは理解している」、「完全に理解している」はいずれの学部でも60%近くに達しており、高い周知度を示している。後学期でも「全く把握していない」、「把握していない」は経済学部、教養教育運営機構、理工学部で15%程度、農学部、文化教育学部で10%程度を示している。文化教

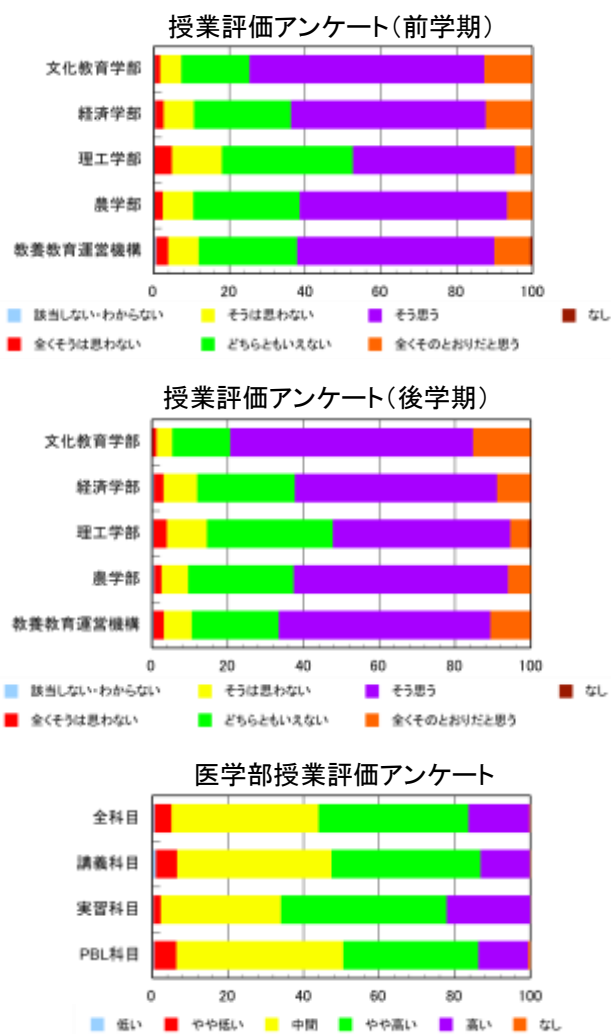


図6 この授業は理解できるに関連した項目への回答

育学部では「少しは把握している」、「完全に把握している」の占める割合が高く70%を超えている。

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

この項目は医学部授業評価アンケートの「授業内容の習得, 理解度」に該当する。結果を図6に示す。前学期と後学期では傾向に大きな差は認められないが、前学期で、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部が最も高く、経済学部, 教養教育運営機構, 農学部, 文化教育学部と徐々に比率は低くなる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は逆に文化教育学部, 経済学部, 教養教育運営機構, 農学部, 理工学部の順に低くなる傾向が認められる。後学期でもこの傾向はほとんど変化しない。医学部では実習科目で理解度が低く, 講義科目, PBL科目の順に理解度が増加する傾向が認められる。

B-2 この科目を受講してみて, 内容への興味が増してきた

この質問項目に該当する医学部授業評価アンケートは「授業内容に対して抱いた興味の程度」である。それぞれの回答結果を図7に示す。

前学期と後学期に見られる傾向には大きな差異は認められない。「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部で最も高く, 経済学部, 教養教育運営機構, 農学部, 文化教育学部の順に低くなる傾向がある。この傾向は平成18年度後学期のアンケート結果と同じである。逆に「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の

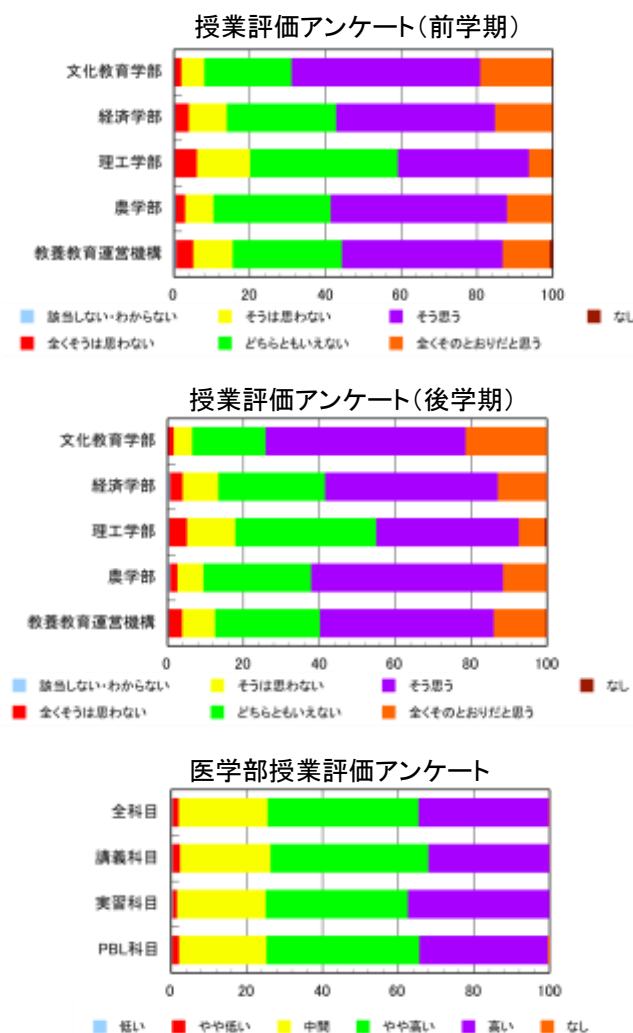


図7 授業内容の興味に関連した項目への回答

比率は文化教育学部で最も高く70%近くに達している。次いで農学部、教養教育運営機構、経済学部、理工学の順に比率が小さくなる傾向にある。特に理工学部では肯定的意見の比率が50%を下回っており、改善の必要がある。

医学部授業評価アンケートでは講義科目において「低い」、「やや低い」とする否定的意見の比率が高く、実習科目やPBL科目の順に低く推移している。「やや高い」、「高い」の占める割合は実習科目、講義科目、PBL科目すべてで70%を超えている。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である

この質問項目の回答結果を図8に示す。この項目に関しても前学期と後学期では大きな差は認められない。「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は理工学部や経済学部で高く、教養教育運営機構、農学部、文化教育学部でそれらに比して僅かに低い値を示している。しかし、すべて20%以下の比率である。一方、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は農学部、文化教育学部で高く50%程度に達してお

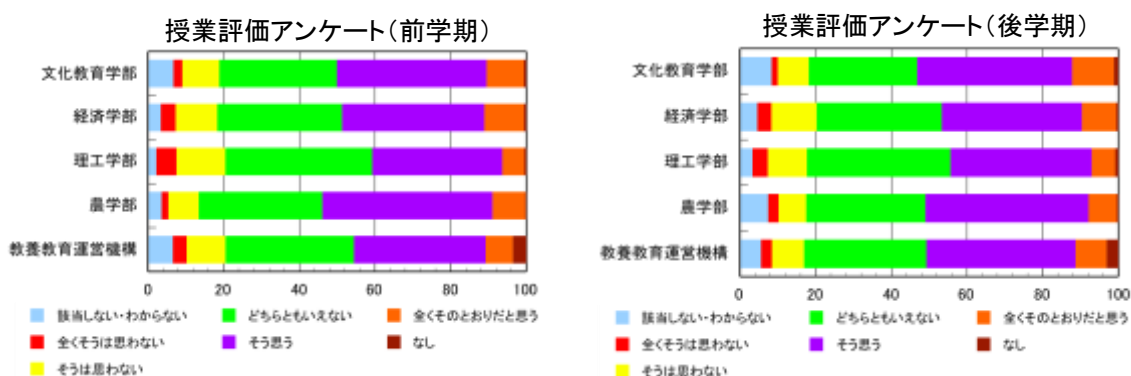


図8 黒板, OHP 等の使い方が効果的であったの項目に対する回答

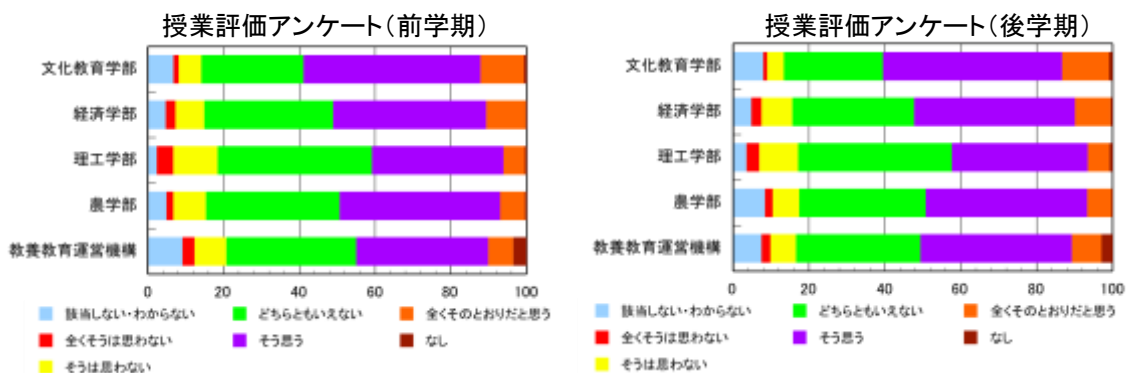


図9 教材はわかりやすかった関連した項目への回答

り、教養教育運営機構、経済学部がそれに続いている。最も割合が低いのは理工学部であった。

B-4 教材(テキスト, 配布資料, その他)はわかりやすかった

この質問項目の回答結果を図9に示す。前学期、後学期を通して「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は文化教育学部、経済学部で高く、農学部、教養教育運営機構、理工学部の順に低くなる。特に理工学部では50%以下でしかなく、抜本的な改善が必要に思われる。逆に「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はすべての学部で20%以下であった。

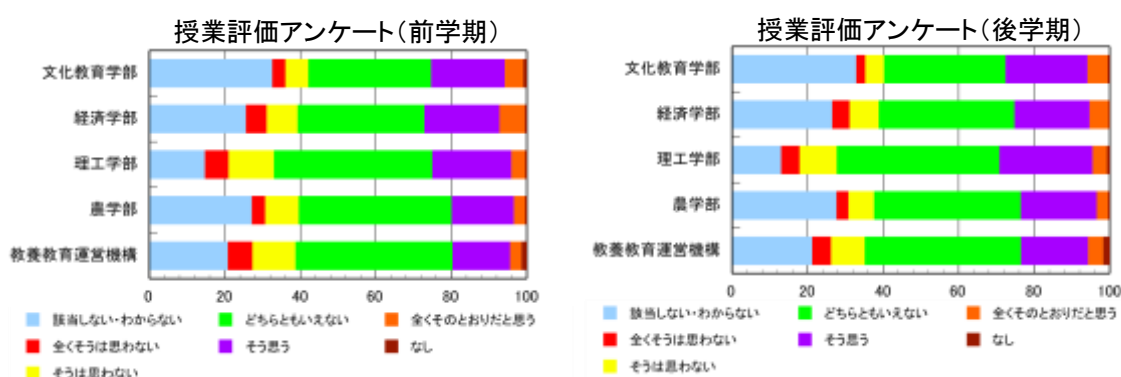


図10 シラバスは学習する上で役に立っているに関連した項目への回答

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

この項目に対応する医学部授業評価アンケートでは講義科目対象のアンケートに「シラバスや配布資料の有効利用度」がこれに相当する。なお、医学部では以下の理由からPBL科目や実習科目においてシラバスの重要性をアンケート項目として取り上げていない。PBL科目については実際の症例を例示しながらチューターが小グループを指導し、指導で十分行き届かない点を授業するという形式を取っているため、シラバスによって学生に講義内容を周知させることが困難である。一方、実習科目では厚生労働省の卒前教育の指針に従って学習の目的と学習内容の概要を冊子にして配布しており、シラバスの重要性を問う意義に乏しい。ここでは授業評価アンケートの結果のみを示す(図10)。

この項目で特徴的なのは「該当しない・わからない」の占める比率が極めて大きいことである。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める比率は経済学部、理工学部、文化教育学部で高く、農学部と教養教育運営機構では20~25%程度で推移している。学生対象アンケートでは全学の30%

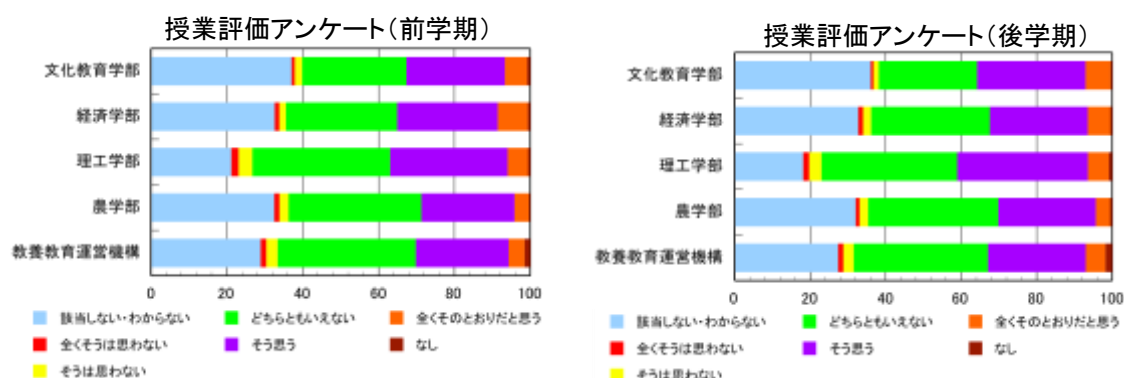


図 11 授業内容はシラバスに沿っているの項目への回答

程度の学生がシラバスを参考にして回答しているが、今回の結果はそれをやや下回る。もっとも学生対象アンケートは3年次のみを対象としたアンケートであるために差異が生じたのかもしれない。佐賀大学では平成19年度の前学期から「シラバス作成に関する要項」を定め、各授業科目において第1回目の授業でシラバスの内容を説明することが義務づけられることになっている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

この項目に相当する授業評価アンケートの結果を図11に示す。前学期と後学期のアンケート結果で有意な差は認められない。この項目でも、「該当しない・わからない」と回答した学生の比率は非常に高く、文化教育学部では35%に達している。理工学部ではこの割合が最も低く、シラバスにそった授業が実施されていると考えられる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の割合は理工学部で最も高く後学期で40%に達している。肯定的意見の割合が最も低いのは農学部であり、30%前後を推移している。シラバスの参照自体が低い値を示しているため、学生はそもそもシラバスを見ていない可能性がある。今後は全学的な取り組みを行う必要があるだろう。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

図12にアンケート結果を示す。前学期と後学期で傾向に特別な差は認められない。すなわち、前学期・後学期共に「そう思う」が全体の6割近くを占めている。「全くそうは思わない」「そうは思わない」などの否定的意見がもっとも多いのは理工学部や農学部であるが、それでも10%前後であった。「そう思う」「まったくその通りだと思う」などの肯定的意見がもっとも多いのは文化教育学部で80%近くに達している。肯定的意見が最も少ないのは理工学部や農学部であり、理系の学部ほど声の大きさ・明瞭さが適切でない可能性がある。

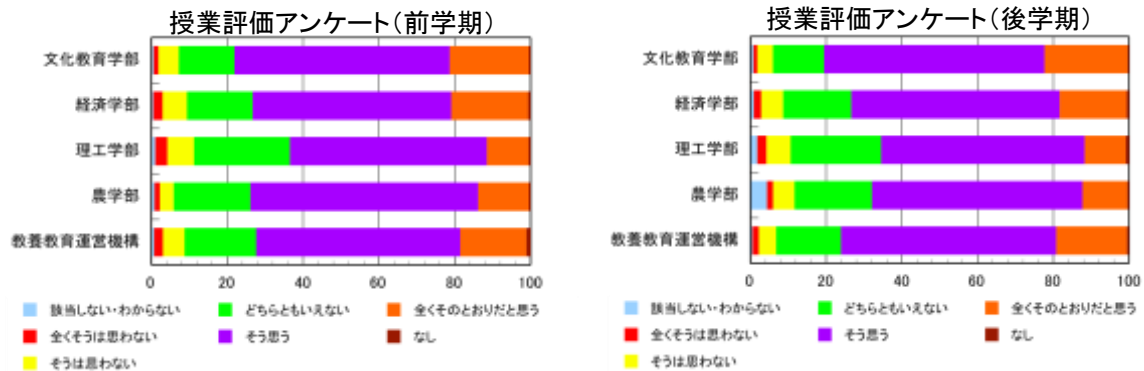


図 12 声の大きさ・明瞭さは適切だったの項目への回答

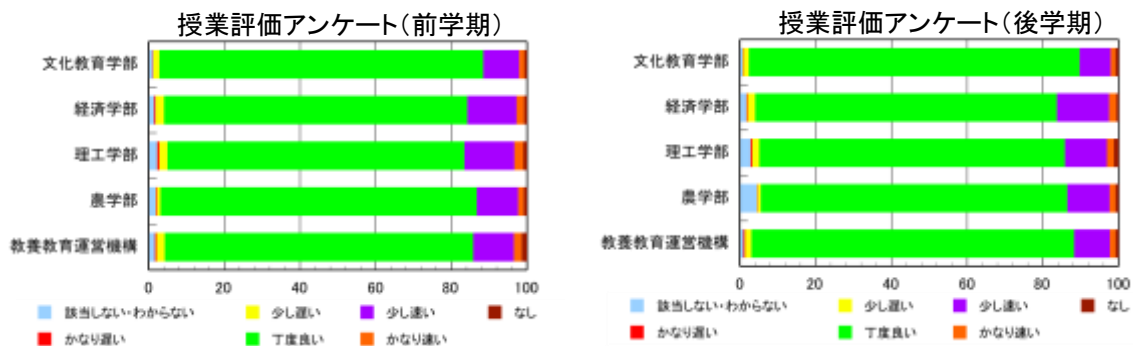


図 13 話す速さは適切だったの項目への回答

B-8 話す速さは適切だった

結果を図13に示す。この項目でも前学期、後学期で認められる傾向は全く同じであり、特に差異はない。両アンケート共に「ちょうど良い」が70%を越えている。「速い」や「少し速い」などの意見が10～20%認められる傾向があり、経済学部や理工学部でやや割合が大きくなっている。逆に「かなり遅い」「少し遅い」などの意見は5%程しか認められない。このことから、本学の教員は全体的に少し速く話す傾向にあると判断される。

B-9 授業の進む速さは適切だった

この項目も前述の2つの質問項目と類似した内容である。結果を図14に示す。B-8の項目と同じように「丁度良い」が全体の80%を占めている。「少し速い」「かなり速い」の割合は理工学部で最も高く前学期では20%を超えている。後学期では20%を切っているが、それでも他の学部にくらべてもっとも比率が高い。「かなり遅い」「少し遅い」は5%程度であり、この項目からも本学の教員は授業の進む

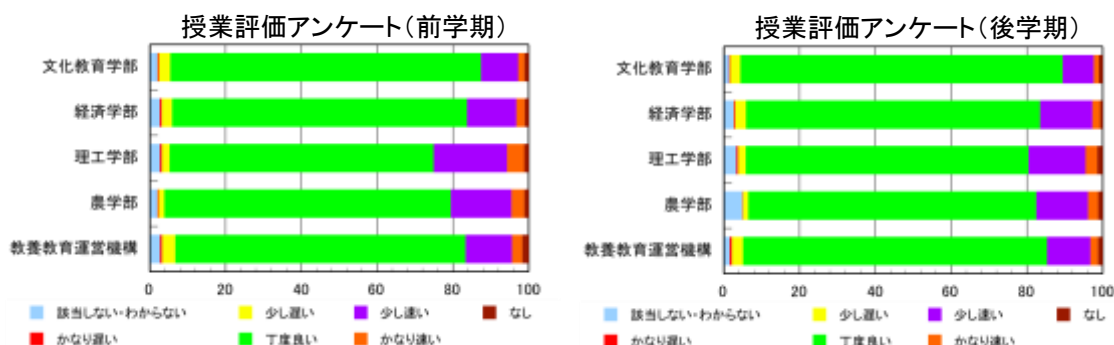


図 14 授業の進む速さは適切だったの項目への回答

速さが早い傾向にあることが分かる。特に理工学部の教員にこの傾向が強いと言えよう。

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を図15に示す。前学期と後学期で傾向に大きな変化は認められないが、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の占める割合が経済学部や理工学部で高くなる特徴が認められる。逆に文化教育学部や農学部ではこの比率が低い特徴がある。「そう思う」「全くその通りだと思う」などの肯定的意見は文化教育学部で最も高く70%近くに達している。前学期では農学部、教養教育運営機構、経済学部、理工学部の順に肯定的意見が低くなり、後学期では教養教育運営機構、農学部、経済学部、理工学部の順に低くなっている。いずれにせよ、理工学部が最も低くなっており、何らかの理由があるのかもしれない。

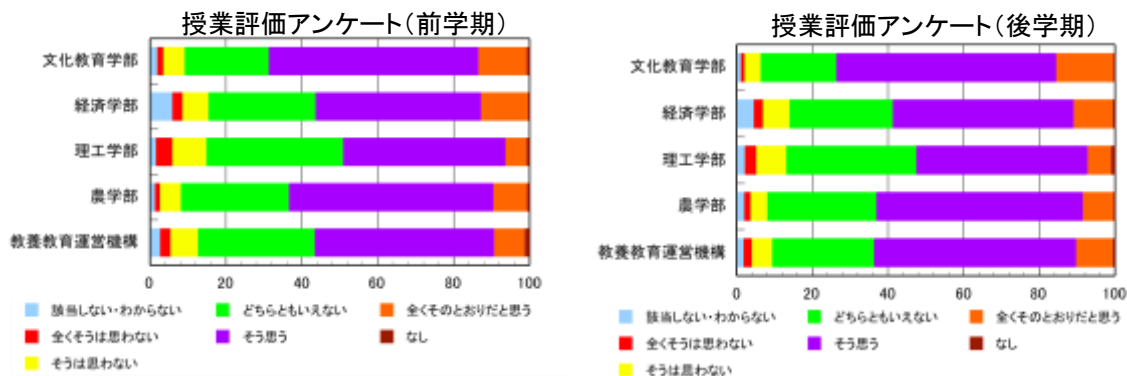


図 15 授業をわかりやすくする工夫が感じられるの項目への回答

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

結果を図16に示す。前学期と後学期の授業評価アンケート結果を見ると傾向には特に大きな変化は認められない。「該当しない・わからない」との回答は前学期、後学期共に経済学部で最も割合が大きい。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は文化教育学部、農学部で高く、60～70%近くに達している。一方、教養教育運営機構、理工学部、経済学部はほぼ同程度で推移し、60%前後にとどまっている。「全くそうは思わない」、「思わない」などの否定的意見の占める割合は理工学部で最も大きく、文化教育学部、農学部ではその割合が相対的に低くなる傾向がある。

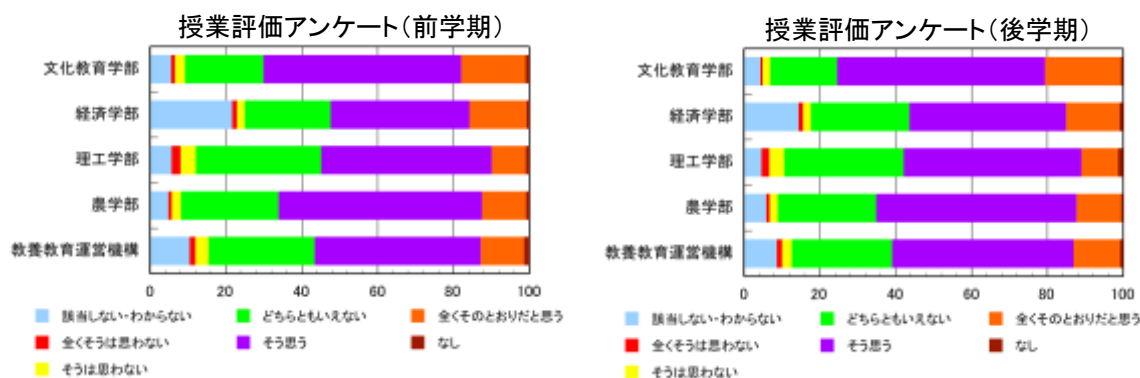


図 16 学生の質問に適切に対応してくれているの項目への回答

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

医学部授業評価アンケートには該当する項目として「授業内容の修得、理解度」が設定されているので、併せて図17に示した。平成18年度後学期のアンケート結果では回答が無い割合が大きかったが、今回のアンケート結果でも4.4～5.5%に及んでいる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は前学期、後学期を通して文化教育学部で最も高く、60%を上回っている。前学期では次いで経済学部、農学部が高く55%程度に達し、後学期では経済学部、農学部、教養教育運営機構で高くなっている。肯定的意見の占める比率が最も低いのは理工学部で、50%程度である。一方、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の占める割合は理工学部が最も大きく、次いで経済学部、教養教育運営機構、文化教育学部、農学部と徐々に小さくなっていく。

医学部では実習科目で「高い」、「やや高い」などの肯定的意見の占める割合が大きく、80%弱に達している。次に講義科目でその割合が高く70%程であり、

PBL科目は低いとは言っても70%に迫っており，他の学部の肯定的意見の占める割合と同程度を示している．逆に「低い」，「やや低い」などの意見を占める割合は講義科目で大きく，PBL科目，実習科目の順に小さくなる傾向が認められる．

満足度に関しては他の項目との相関について項を変えて詳しく検討することにした．

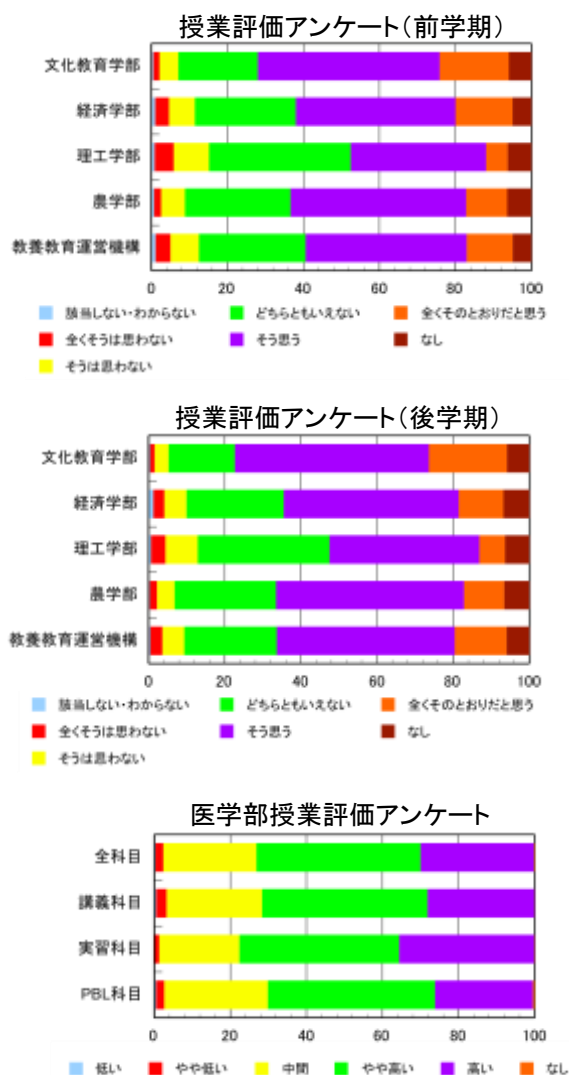


図 17 この授業を受講して満足が得られたの項目への回答

Ⅲ-(2) 研究科別の結果と解析

ここでは平成18年度から取り組んでいる教育学研究科，経済学研究科，工学系研究科，農学研究科の授業評価アンケートについて前述の学部別と同様に結果とその解析について述べる．なお，医学系研究科についても実施しているが，アンケート項目が他研究科と異なっているため，詳細は別報として報告する．

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

図18に出席率に関する回答結果を示す．80%以上出席したという回答の占める割合はすべての研究科で90%に達している．特に経済学研究科は後学期にほぼ100%の学生で出席率が高くなっている．全体的には前学期よりも後学期の方が出席率が悪い傾向にある．

A-2 予習をどの程度していますか

図19に毎週の予習時間についての回答結果を示す．この結果は理系と文系で明瞭に差が認められる．すなわち，毎週の予習時間が0時間と回答した割合が教育学研究科，経済学研究科など文系研究科では20%以下にとどまっているが，農学研究科，工学系研究科などの理系研究科では30～40%に及んでいる．この傾向は平成18年度後学期のアンケート結果と同じである．「3時間以内」，「3時間以上

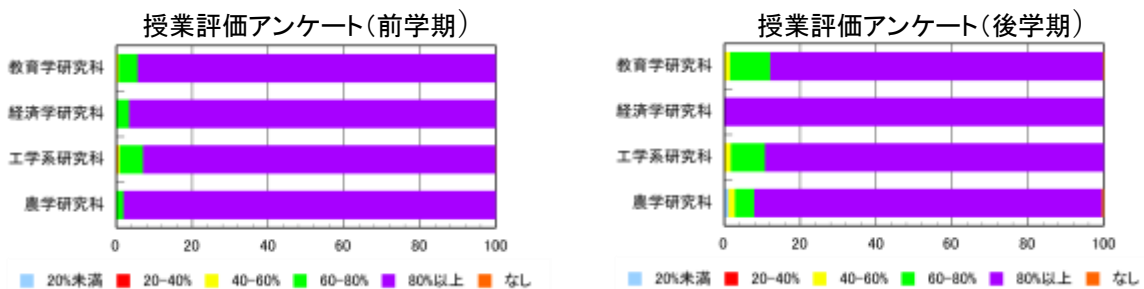


図 18 出席率はどのくらいですかへの回答

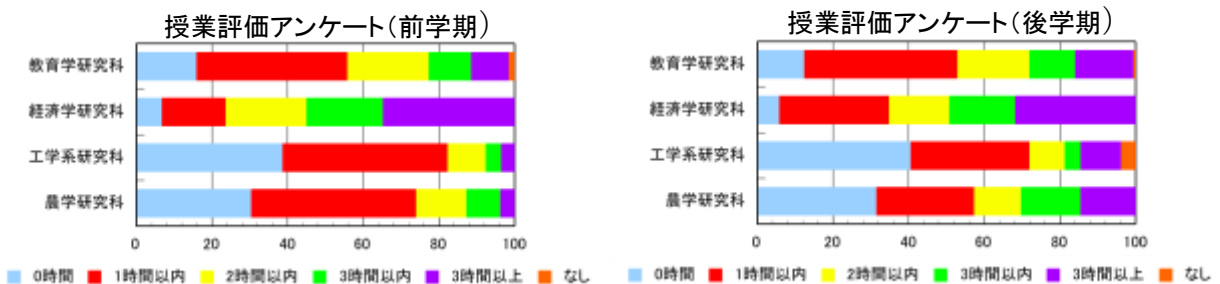


図 19 予習を毎週どの程度していますかへの回答

上」と回答した割合も文系研究科では20～50%に達するが、理系研究科では30%以下となっている。特に工学系研究科の前学期では10%以下となっており、なんらかの取り組みが必要であろう。

A-3 復習をどの程度していますか

図20に毎週の復習時間についての回答結果を示す。この項目も理系と文系で特徴が異なっている。文系の研究科では「0時間」と回答している割合は20%を下回っているが、理系の研究科は30%を上回っている。逆に「3時間以内」、「3時間以上」との回答の割合も文系研究科では10～50%を推移しているが、理系研究科では5～20%でしかない。また、前学期よりも後学期の方が復習時間が長くなる傾向が認められる。

A-4 この授業の学修目標を把握している

回答結果を図21に示す。この項目では全ての研究科で「全く把握していない」と回答した学生は極わずかしかない。しかし、割合としては工学系研究科や農学研究科で多い特徴がある。また、「把握していない」との回答の割合も工学系研究科では10%近くあり、文系研究科のそれを大きく上回っている。逆に「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的回答も経済学研究科、教育学研究科で高く、工学系研究科、農学研究科で低くなる特徴がある。

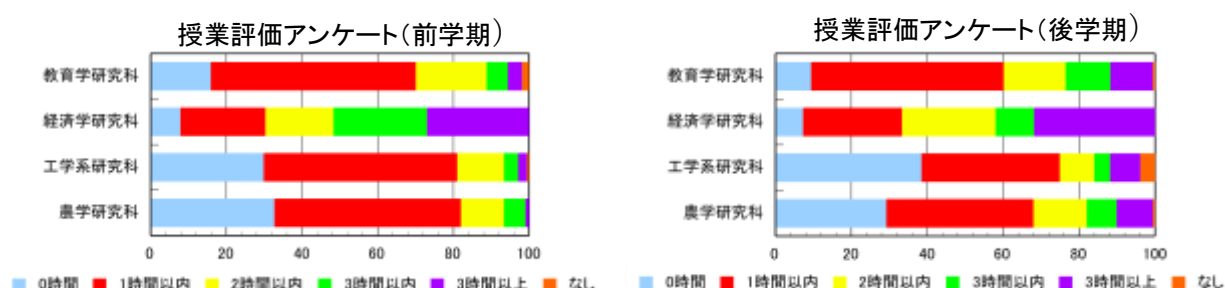


図20 復習を毎週どの程度していますかへの回答

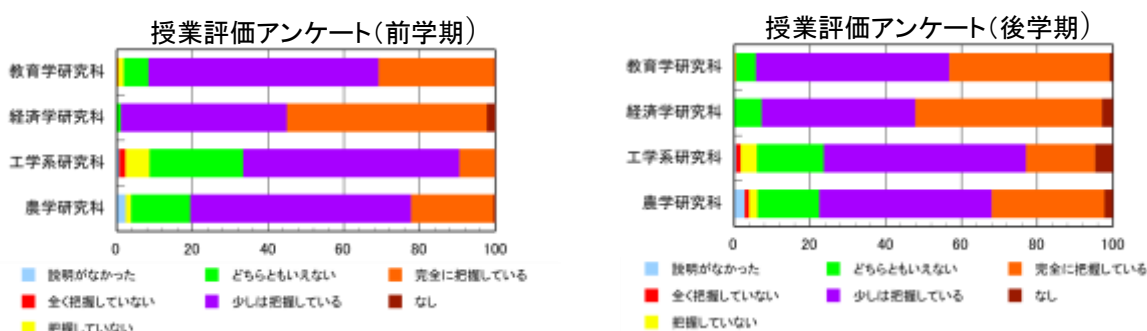


図21 この授業の学習目標を把握しているに対する回答

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

回答結果を図22に示した。この項目では、「全く把握していない」、「把握していない」などの否定的な回答の比率は農学研究科，工学系研究科，教育学研究科で大きく，経済学研究科ではその比率が低い特徴が認められる。特に経済学研究科では否定的な回答のほとんど認められない。逆に、「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的意見の占める割合は経済学部で90%近くに達し，周知が徹底されていることを物語っている。しかし，他の研究科でもその割合が70%を超えており，把握している学生が多いことが分かる。

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

図23に授業の理解度に対する回答結果を示した。経済学部では「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」がほぼ100%を占めており，受講者のほとんどが授業内容を理解できていると感じていることが明らかとなっている。教育学研究科でも「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど認められず，「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が90%を

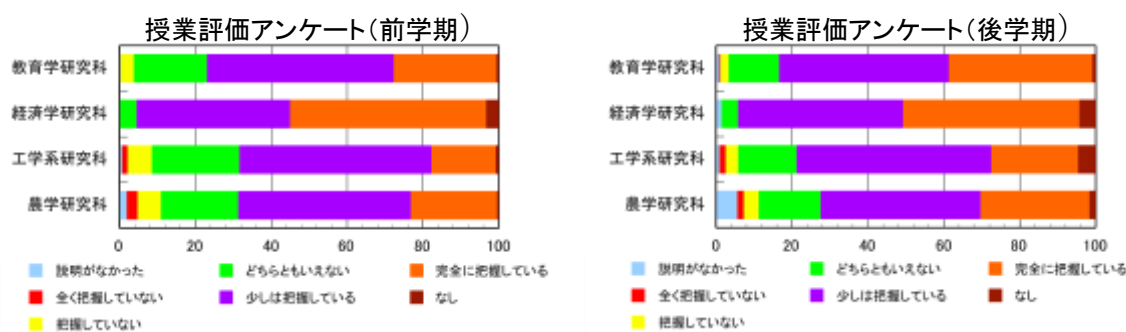


図22 この授業の成績評価基準を把握しているに対する回答

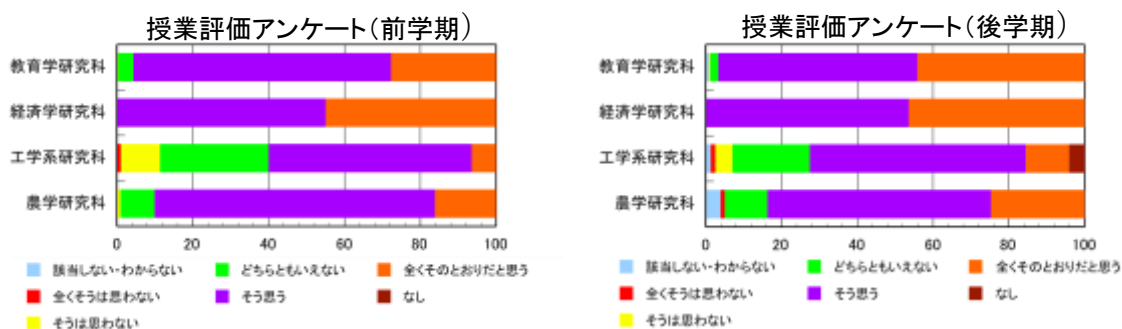


図23 この授業の内容は理解できるに対する回答

占めている。一方、農学研究科では否定的意見は少ないが、「そう思う」、「全くその通りだと思う」などの肯定的意見は80～90%であった。工学系研究科では否定的な意見が5～10%ほど認められ、肯定的な意見は60～70%にとどまっている。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

図24に授業に対する興味の程度を示した。これも理解度とよく似た傾向を示している。すなわち、文系研究科である経済学研究科や教育学研究科では「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど無く、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が95～100%近くに達している。一方、理系研究科である農学研究科と工学系研究科では5～10%の否定的な意見が認められ、肯定的意見は農学研究科では80～90%、工学系研究科では55～75%認められる。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である

結果を図25に示す。教育学研究科では「該当しない・わからない」の比率が20%近くに達しており、講義形態が黒板・ホワイトボード、スライドなどの使用に該当しない科目が多いことが明らかである。一方で、「そう思う」、「その通りだと思う」の割合は70%近くに達している。他の研究科では「全くそうは思わない」、「そうは思わない」

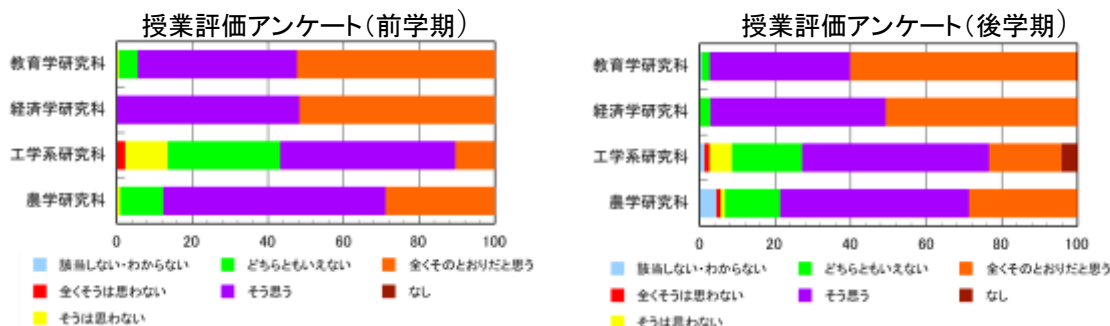


図24 この授業への興味の増加に対する回答

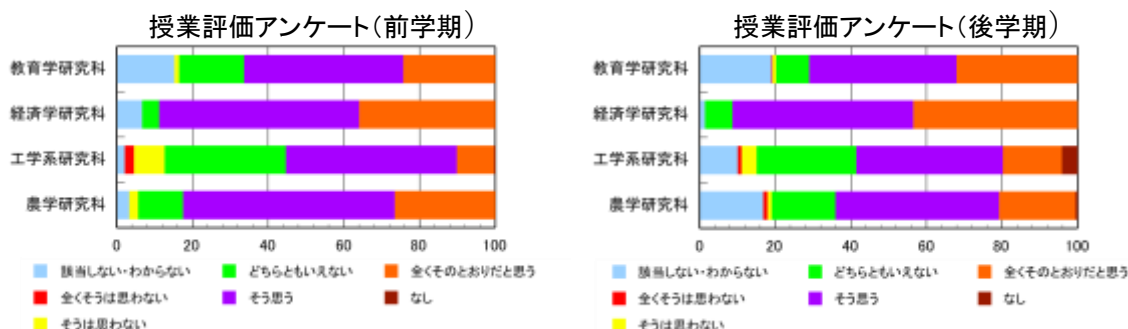


図25 黒板, OHP 等の使い方が効果的であったの項目に対する回答

「そうは思わない」などの否定的意見の割合は比較的小さく、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が60%近くに達している。経済学研究科では否定的意見が認められず、肯定的意見が90%近くに達している。農学研究科も否定的意見の割合が小さく、肯定的意見の割合が60~80%に達している。工学系研究科では否定的な意見が5~10%、肯定的な意見が60%弱という結果であった。

B-4 教材(テキスト, 配布資料, その他)はわかりやすかった

結果を図26に示す。この結果も前項の結果と類似している。文系研究科である教育学研究科と経済学研究科では「全くそうは思わない」という回答はなく、「そうは思わない」という意見が教育学研究科に僅かに認められる程度である。一方、理系研究科である工学系研究科と農学研究科は「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見が5~10%程を占めている。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で95%を越え、次いで教育学研究科、農学研究科、工学系研究科の順に小さくなっている。特に工学系研究科では50~60%に留まっている。

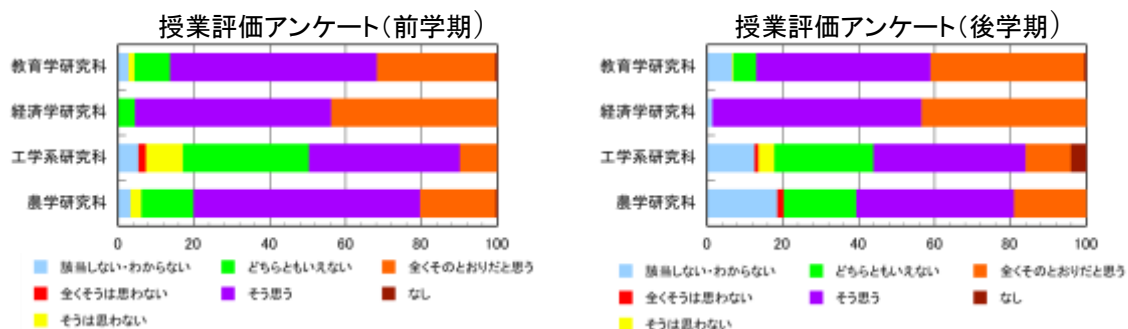


図26 教材はわかりやすかった関連した項目への回答

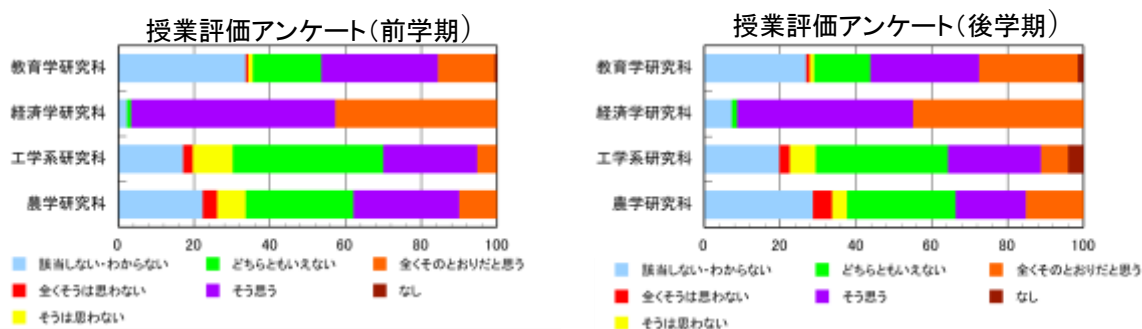


図27 シラバスは学習する上で役に立っているの項目への回答

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

回答結果を図27に示す。大学教育においてシラバスが有効に活用されているか否かは大変重要なことであり、科目毎に確認する必要が求められている。結果を見ると「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は教育学研究科や経済学研究科では5%未満である。農学研究科や工学系研究科ではその比率が10~15%に達しており、否定的に考えている院生の割合が多いことが明瞭である。一方、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で90%に達し、教育学研究科で60%弱、農学研究科で35~40%、工学系研究科では35%程度にとどまっている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

図28に結果を示す。経済学研究科や教育学研究科では「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見は極わずかであり、経済学研究科では「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」の回答の比率が90%以上に達している。前項の結果と考え合わせると経済学研究科ではシラバスが有効に活用されていることが伺える。教育学研究科も肯定的な意見が50~60%に達している。工学系研究科や農学研究科でも否定的な意見は認められるものの5%以下であり、肯定的な意見が40~50%を占めている。また、前項の結果と共通する特徴であ

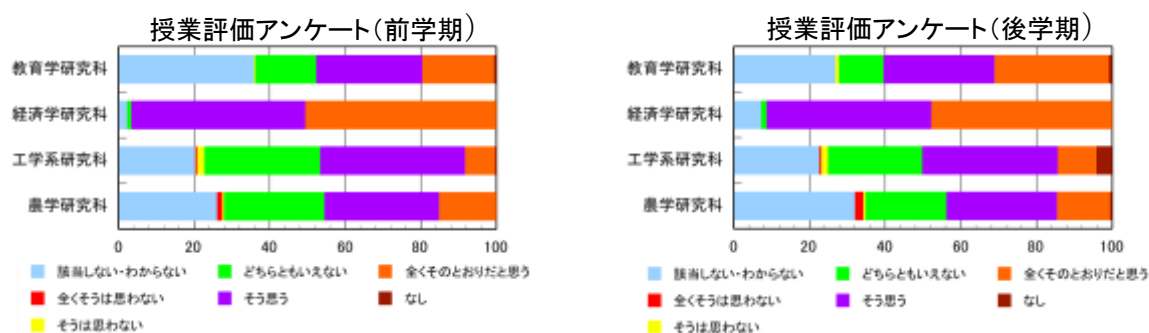


図28 授業内容はシラバスに沿っているの項目への回答

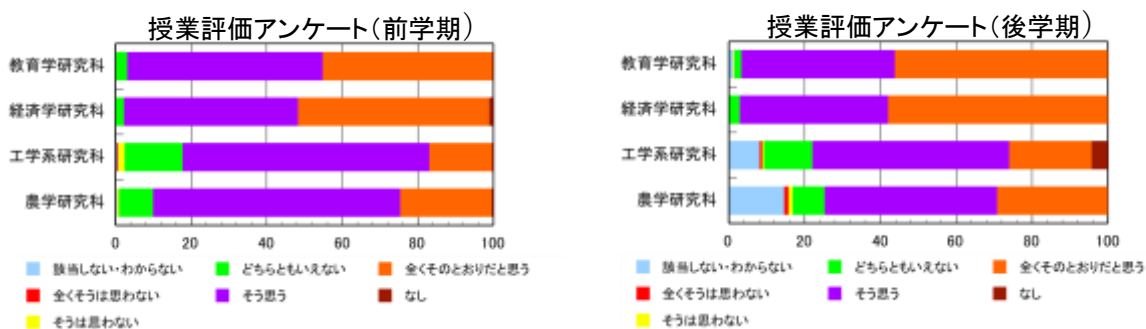


図29 声の大きさ・明瞭さは適切だったの項目への回答

るが、理系研究科では「該当しない・わからない」の回答の比率が後学期で20～30%を占めている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

図29にアンケート結果を示す。経済学研究科と教育学研究科では95%以上の院生が「そう思う」、「全くそのとおりに思う」となどの肯定的意見を寄せている。工学系研究科や農学研究科でも70～80%近くの院生が肯定的な回答をしており、全体的に授業における声の大きさや明瞭さは適切であったことが伺い知れる。

B-8 話す速さは適切だった

結果を図30に示す。全体的に見て「丁度良い」が占める割合が80～90%に達している。また、「少し速い」、「かなり速い」などの意見の比率はどの研究科でも10%強程度であった。工学系研究科と農学研究科では「かなり遅い」、「少し遅い」が僅かではあるが認められ、「該当しない・わからない」が最大で15%程認められる。

B-9 授業の進む速さは適切だった

結果を図31に示す。経済学研究科は「丁度よい」が90%を占め、「少し速い」、「かなり速い」が8%を占める結果となっている。教育学研究科では「丁度良

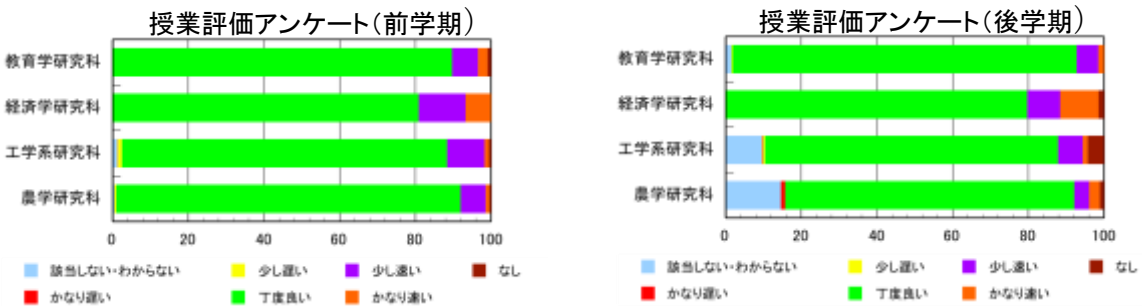


図30 話す速さは適切だったの項目への回答

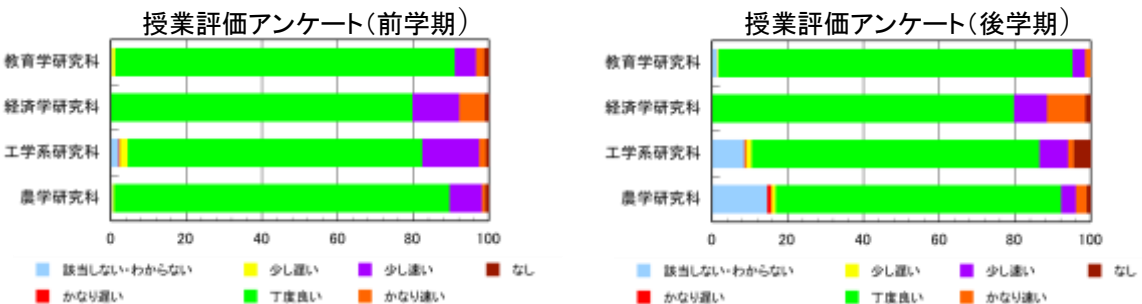


図31 授業の進む速さは適切だったの項目への回答

い」の占める割合が90%を越え、「少し早い」、「かなり速い」が10%程を占めている。工学系研究科では「丁度良い」が80%近く占めるものの、「少し遅い」、「少し速い」、「かなり速い」などの意見が5%程認められる。農学研究科では「該当しない・わからない」の意見の占める割合が後学期で15%程に達しており、「少し速い」、「かなり速い」などの意見も10%程認められる。また、ごく僅かではあるが「かなり遅い」、「少し遅い」の回答が認められる。

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を図32に示す。経済学研究科、教育学研究科では「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合が90%に達しており、「そうは思わない」などの否定的意見はごく僅か認められる程度であった。農学研究科および工学系研究科では否定的意見が5%ほど認められ、肯定的な意見は農学研究科で90%前後、工学系研究科で60~70%である。理系の研究科では後学期に「該当しない・わからない」とする回答が10%程認められる。全体的に見て文系研究科の教員の方が授業を分かりやすくする工夫を行っているように考えられ

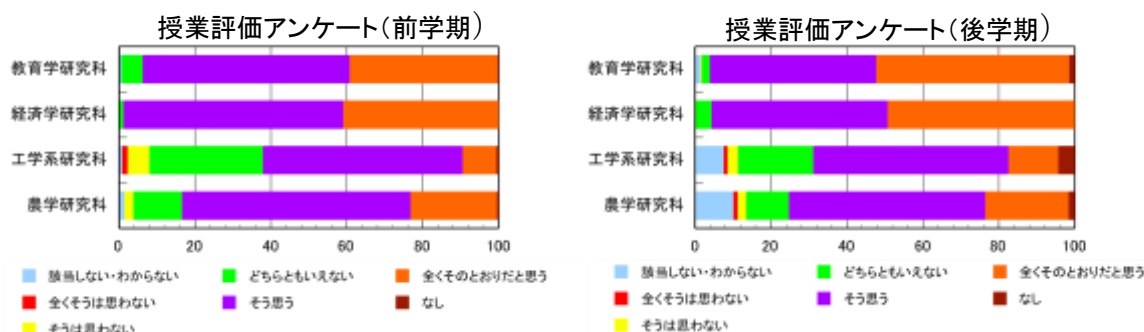


図32 授業をわかりやすくする工夫が感じられるの項目への回答

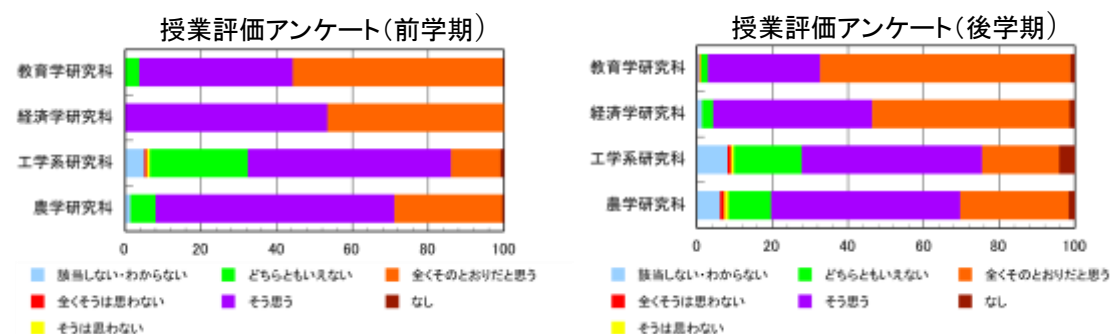


図33 学生の質問に適切に対応しているの項目への回答

る。

C-2 学生の質問に適切に対応している

結果を図33に示す。この項目は前項の結果と類似している。すなわち、経済学研究科や教育学研究科で「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が90%以上を占めるのに対して、農学研究科では前学期90%、後学期80%であった。工学系研究科ではその割合が70%前後である。否定的な意見も文系の研究科にはほとんど認められないが、理系の研究科には僅かであるが確認できる。この結果からも文系研究科の教員の方が学生に適切に対応していることが推測される。

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

結果を図34に示す。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は教育学研究科や経済学研究科などの文系研究科で90%近くに達している。工学系研究科や農学研究科では肯定的意見の割合は70~80%にとどまっており、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見が5~10%ほど認められる。また、この項目では「回答なし」の比率が他の質問項目よりもやや大きく、どの研究科でも10%弱認められる。

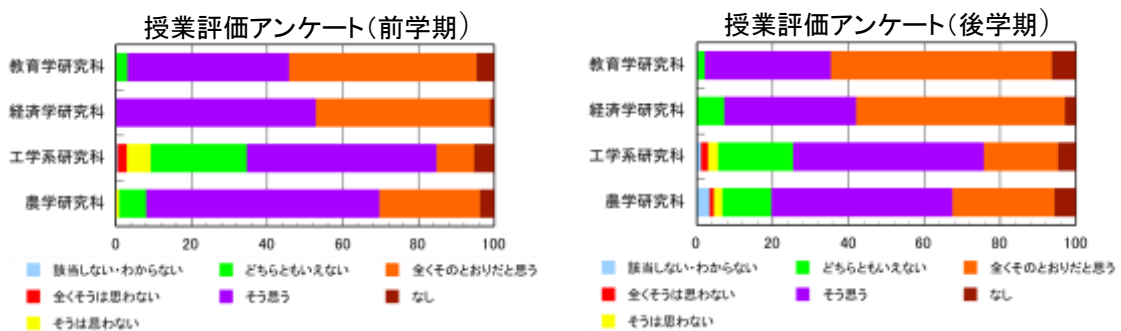


図34 この授業を受講して満足が得られたの項目への回答

Ⅲ-(3) 授業内容及び授業方法, 教員の対応と満足度の関係

授業を受けた学生の満足度を指標にして, 授業方法, 授業内容や教員の対応との相関を解析した. 満足度を指標にすること自体様々な問題を含んでいると考えられるが, ここでは満足度の高い授業ほど評価の高かった授業として解析している. 平成18年度の報告書では開講部局毎に分けて表示していたが, 本質的な改善に結びつけることが出来なかったため, 今回は科目種別毎に分けて表示している. すなわち, 演習科目, 講義科目, 実技・実習・実験科目である. 無論, もっと細分した種別で検討することが望ましいが, それは各部局の組織別授業評価に委ねることにはしたい.

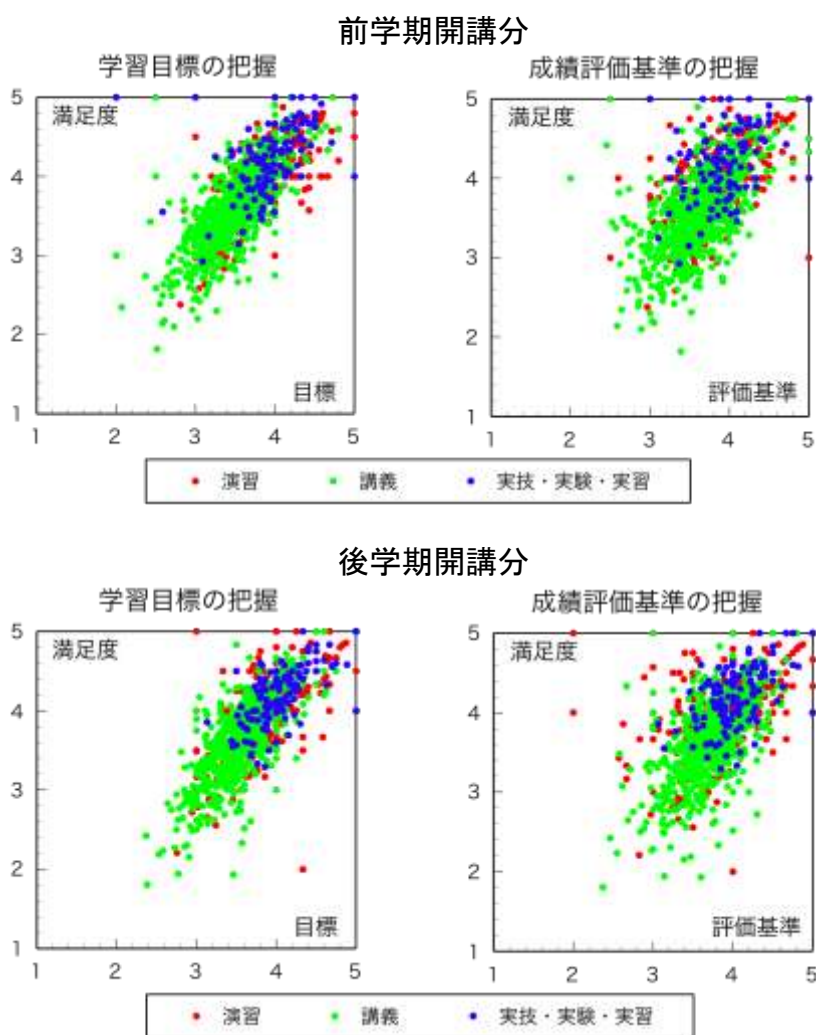


図35 満足度と学習目標・成績評価基準の把握との相関

1. 学部別解析結果

図35に「満足度」と「学習目標の把握」及び「成績評価基準の把握」の相関関係を示した。点示されている各打点ひとつがひとつの授業科目の平均値を示している。解析した授業科目数は前学期で文化教育学部401，経済学部128，理工学部235，農学部86，教養教育運営機構373の計1223科目，後学期で文化教育学部430，経済学部150，理工学部315，農学部119，教養教育運営機構302の計1316科目である。ただし，打点したデータは卒業研究およびそれに準じるものは除いてある。なお，医学部はアンケート項目の指標が異なっているためここには示していない。

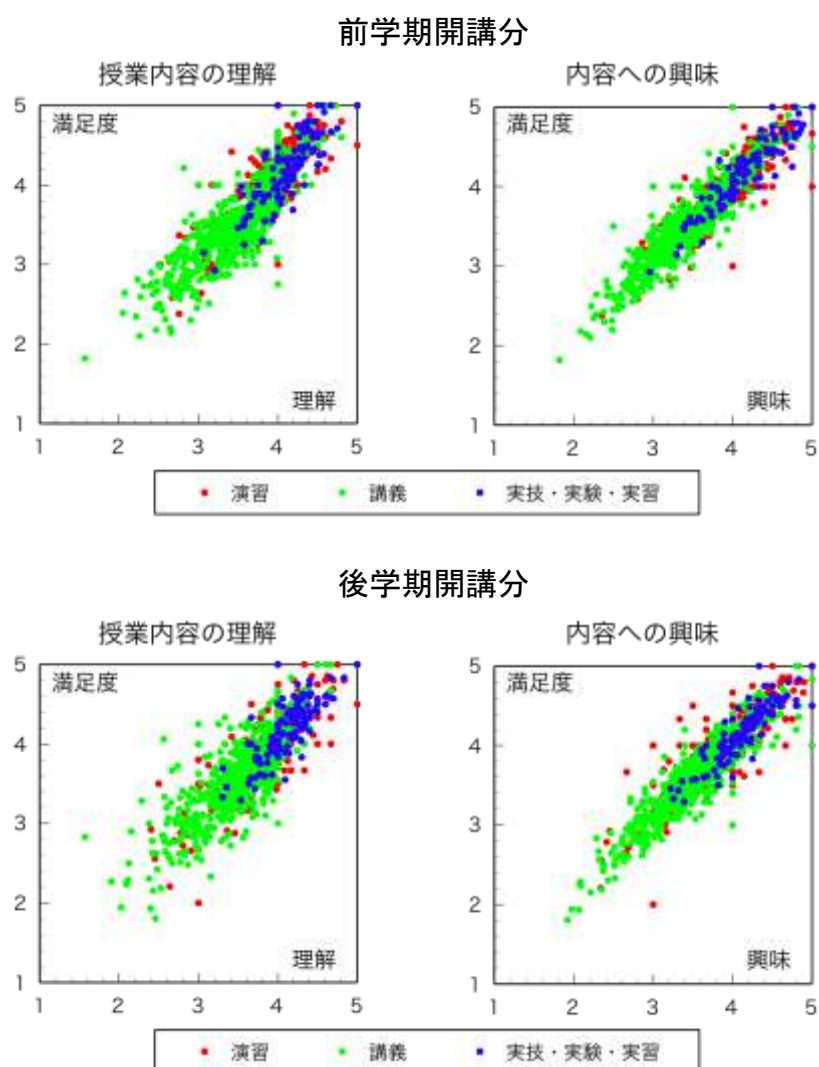
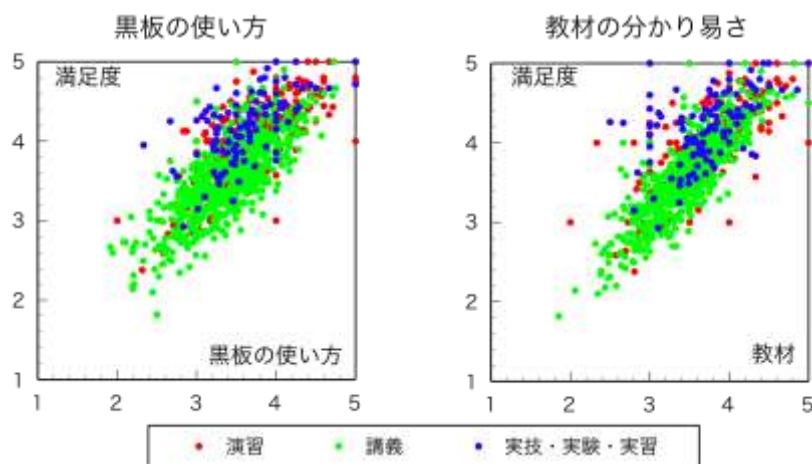


図36 満足度と授業内容の理解と興味との相関

図を見ると右上がりの正の相関が明らかである。すなわち「満足度」が高い科目ほど学生は「学習目標」や「成績評価基準」をきちんと把握している実態が浮かび上がっている。科目種別毎での差は認められない。

次に「満足度」と「授業内容の理解」及び「内容への興味」の相関について検討してみた(図36)。この図において「満足度」と「内容への興味」については極めて高い相関が認められる。当然のことではあるが学生は興味を持って授業科目を受講しているので、正の相関を示す結果となったのであろう。「授業内容の理解」についても右上がりの正の相関が明瞭である。ただし、講義科目はやや分散が進む傾向にある。科目種別毎に大きな差は認められないが、講義科

前学期開講分



後学期開講分

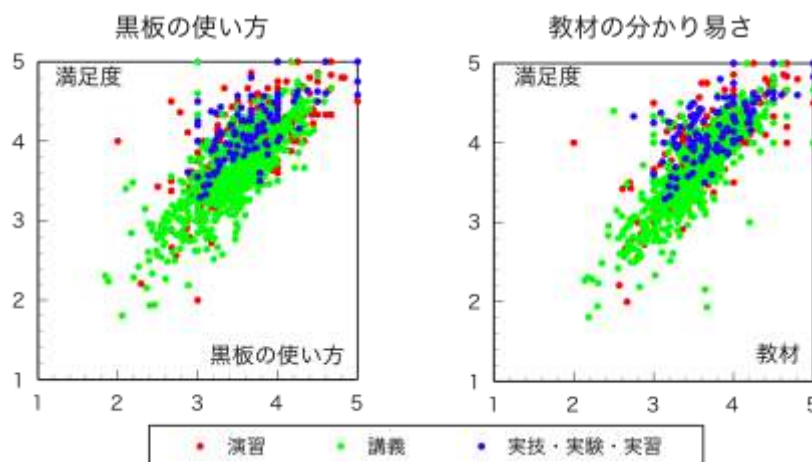
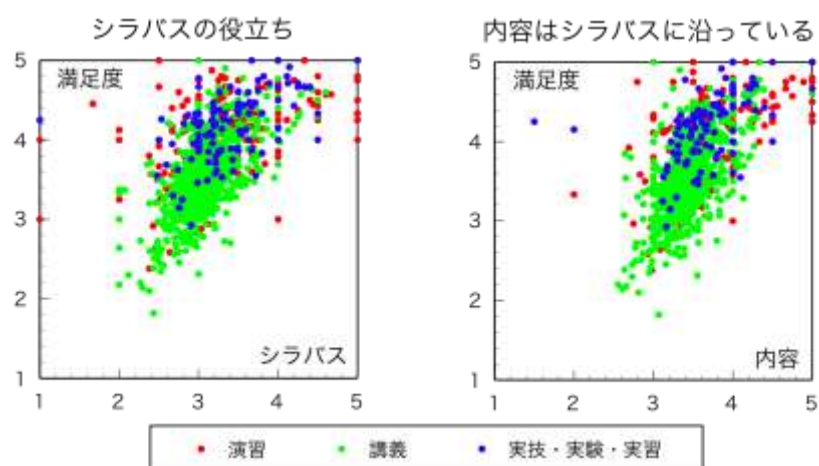


図37 満足度と黒板の使い方, 教材の分かり易さとの相関

目で分散が進んでいるように見える。これは講義科目数が多いためにより明瞭に現れていると考えられる。

図37に「満足度」と「黒板の使い方」及び「教材の分かり易さ」の相関を示す。図を見ると右上がりの正の相関を示しており、「黒板等の使い方」や「教材等のわかりやすさ」で高い評価を得ている授業科目ほど学生の「満足度」が高いことが明らかである。実技・実験・実習科目については同じ満足度ではあっても黒板を使わない場合や特定の教科書を用いない場合もあることからやや評価が下がり、全体的な傾向から左側へとシフトする傾向が認められる。

前学期開講分



後学期開講分

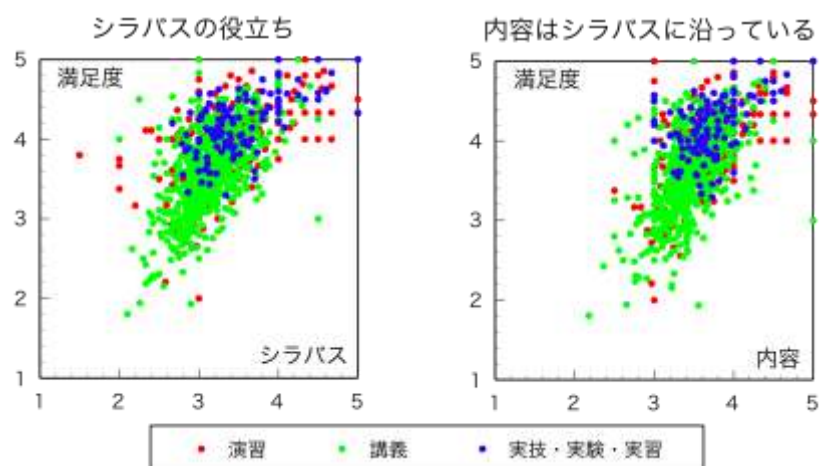


図38 満足度とシラバスの役立ち, シラバスの内容との相関

次に「満足度」と「シラバスの役立ち」、「シラバスと内容」に関して相関関係をみる。図38に結果を示す。いずれも右上がりの正の相関が明瞭であるが、「シラバスの役立ち」との相関はかなり分散する傾向が認められる。すなわち、「シラバスの役立ち」が低くても高い「満足度」を得ている科目が多いため上方へ拡散しているのであろう。一方、「シラバスと内容」との相関もかなり分散が認められる。

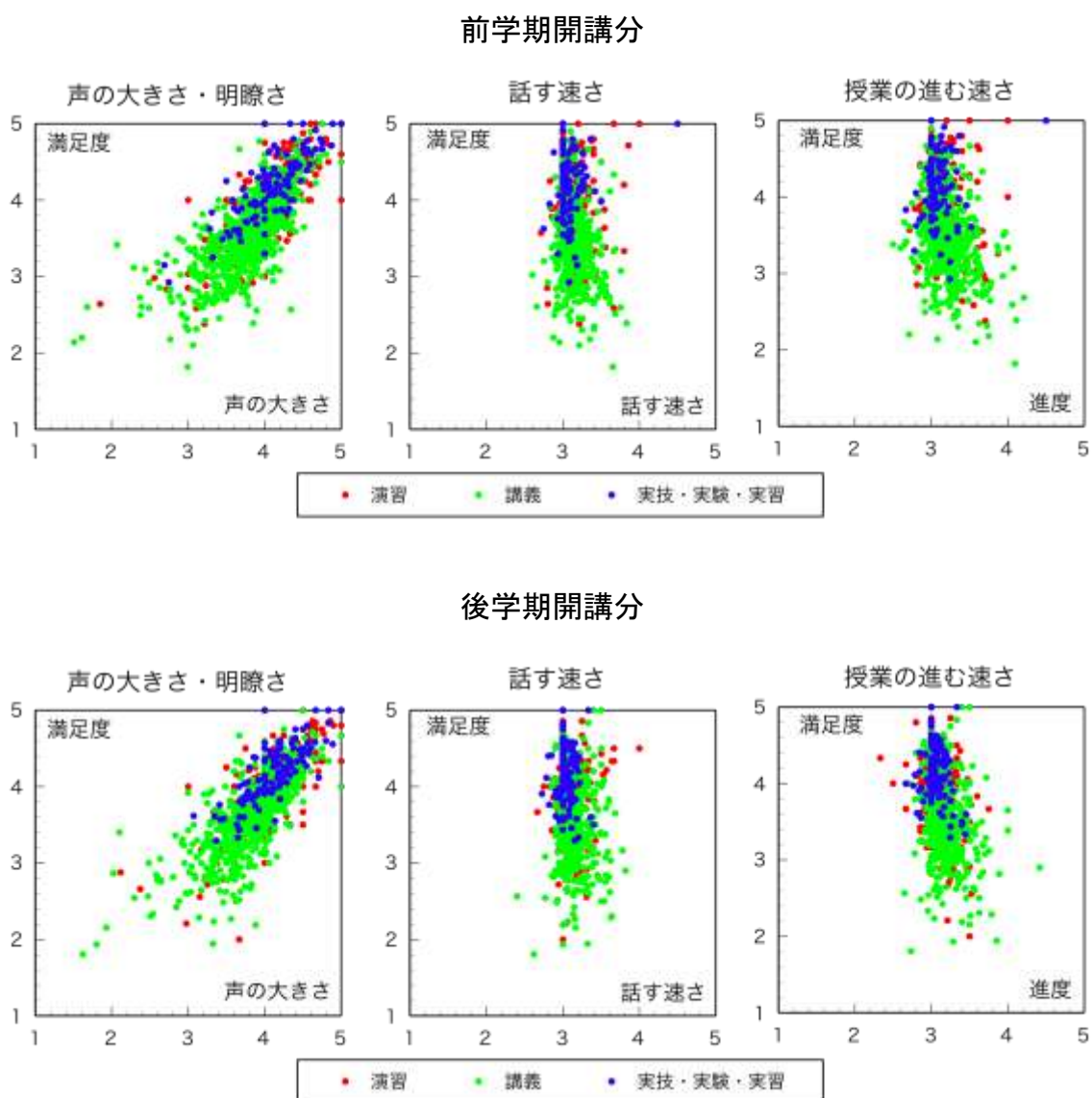
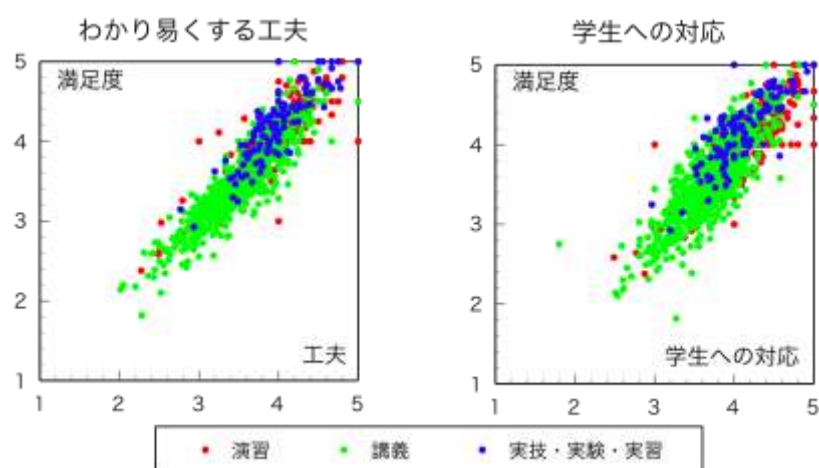


図39 満足度と声の大きさ速度との相関

図39に「満足度」と「声の大きさ・明瞭さ」、「話す速さ」、「授業の進む速さ」との相関を示す。教員の「声の大きさ・明瞭さ」は「満足度」とかなり高い相関を示している。しかし、「声の大きさ・明瞭さ」の評価が低くなるにつれ分散が目立ってくる。「話す速さ」や「授業の進む速さ」は中間値である3を「丁度良い」としているために単純な相関は見られない。しかし、「満足度」が低くなるにつれ、「話す速さ」、「授業の進む速さ」は速すぎるという評価を受けている

前学期開講分



後学期開講分

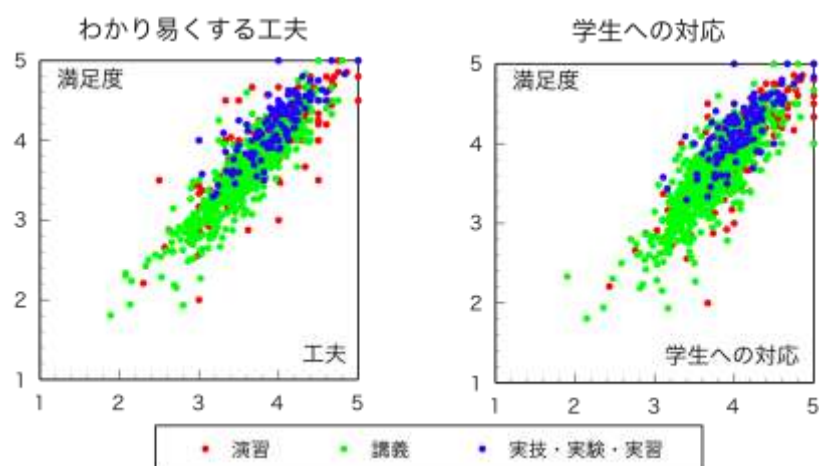


図40 満足度と教員の態度との相関

科目が多いことが分かる。すなわち、学生はあまり速すぎる進め方では不満を抱くと言うことであろう。

教員の態度である「授業を分かり易くする工夫」、「質問への対応」と「満足度」の相関を図40に示す。「分かり易くする工夫」と「満足度」は明瞭な相関関係が認められ、工夫をしている授業ほど学生は高い満足を得ていることが明らかである。また、「質問への対応」で評価の高い科目ほど「満足度」も高くなることが明らかである。この傾向は平成18年度後学期のアンケート結果と一致している。

2. 研究科別解析結果

図41に学部と同様に「満足度」と「黒板等の使い方」及び「教材等のわかりやすさ」の相関関係を示した。解析した授業科目数は前学期で教育学研究科67、経済学研究科19、工学系研究科94、農学研究科36の計216科目、後学期で教育学研究科114、経済学研究科30、工学系研究科160、農学研究科56である。なお、大学院では前学期において実技・実験・実習科目で共通アンケートのデータは無かった。また、打点したデータは特別研究およびそれに準じるものは除いてある。医学系研究科はアンケート項目の指標が異なっているためここには示していない。

図を見ると右上がりの正の相関が認められるが、学部の場合と異なりやや分散している。ただし、学部と同様に「満足度」が高い科目ほど学生は「学習目標」や「成績評価基準」をきちんと把握している傾向は残っている。科目種別毎での差は認められない。

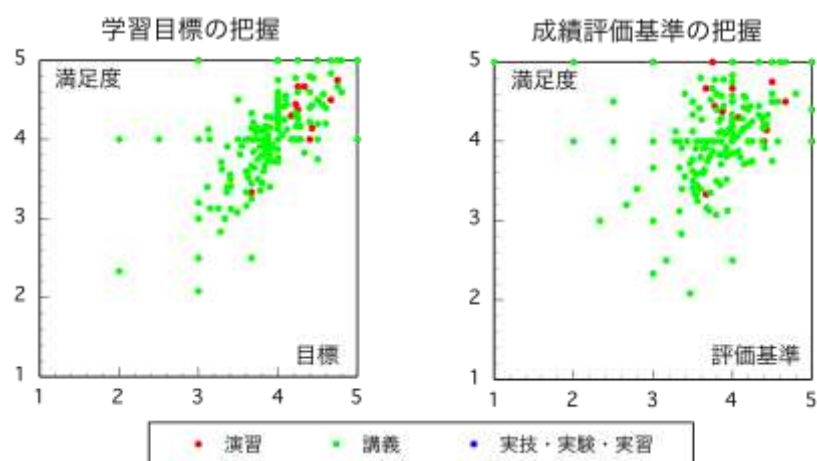
次に「満足度」と「授業内容の理解」及び「内容への興味」の相関について検討してみた（図42）。この図において「満足度」と「内容への興味」については学部の解析結果と同様に極めて高い相関が認められる。大学院に進学していても学生は興味を持って授業科目を受講しているので、正の相関を示す結果となったのであろう。「授業内容の理解」についても右上がりの正の相関が明瞭である。ただし、「内容への興味」に比べる分散が進む傾向にある。

図43に「満足度」と「黒板の使い方」及び「教材の分かり易さ」の相関を示す。図を見ると右上がりの正の相関を示しており、「黒板等の使い方」や「教材等のわかりやすさ」で高い評価を得ている授業科目ほど学生の「満足度」が高いことが明らかである。ただし、学部の場合と比べかなり分散が進んでいる。

なお、実技・実験・実習科目は数が僅かであるため、あまりはっきりしたことは言えない。

次に「満足度」と「シラバスの役立ち」、「シラバスと内容」に関して相関関係をみる。図44に結果を示す。いずれも右上がりの正の相関が明瞭であるが、「シラバスの役立ち」との相関はかなり分散する傾向が認められる。また、数は少ないが演習科目は満足度が高くはあるが「シラバスの役立ち」に関しては左側にシフトして点示されている。また、「シラバスの役立ち」が低くても高い「満

前学期開講分



後学期開講分

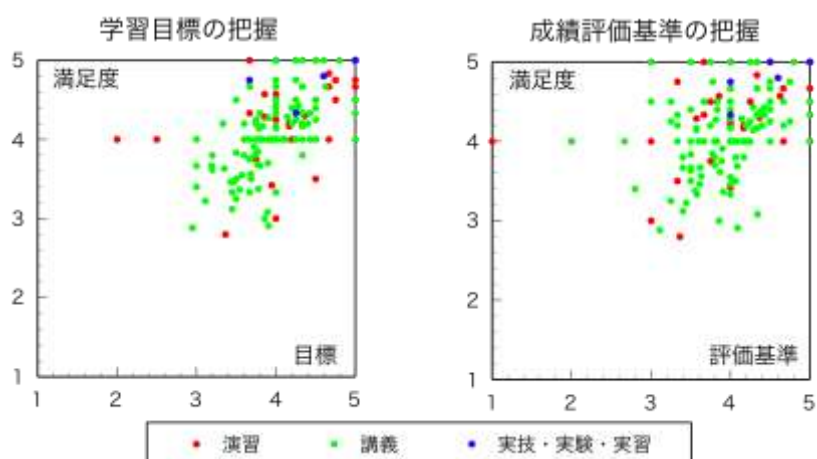
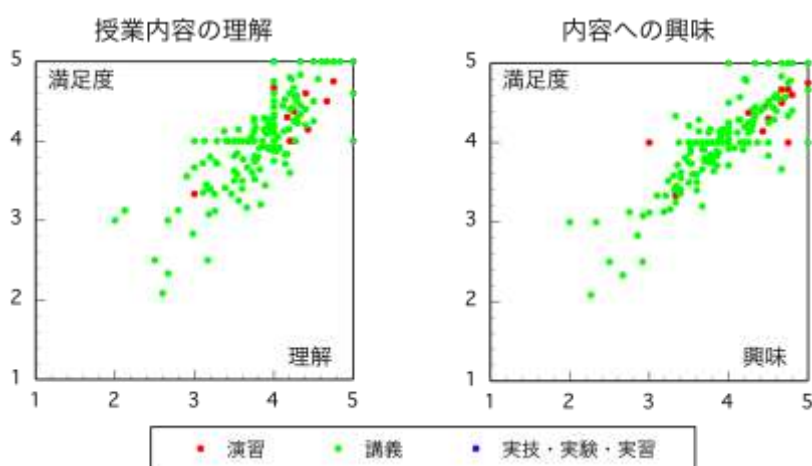


図41 満足度と学習目標・成績評価基準の把握との相関

満足度」を得ている科目が多いことは学部の分析結果と同様である。「授業内容がシラバスに沿っていたか」との相関でも分散が著しいが、弱い正の相関が認められる。

図45に「満足度」と「声の大きさ・明瞭さ」、「話す速さ」、「授業の進む速さ」との相関を示す。教員の「声の大きさ・明瞭さ」は「満足度」と弱いながらも相関を示している。しかし、学部の場合と比較すると分散が目立ち、変化傾向が急傾斜をなしている点が特徴的である。「話す速さ」や「授業の進む速さ」は中間値である3を「丁度良い」としているために単純な相関は見られない。学

前学期開講分



後学期開講分

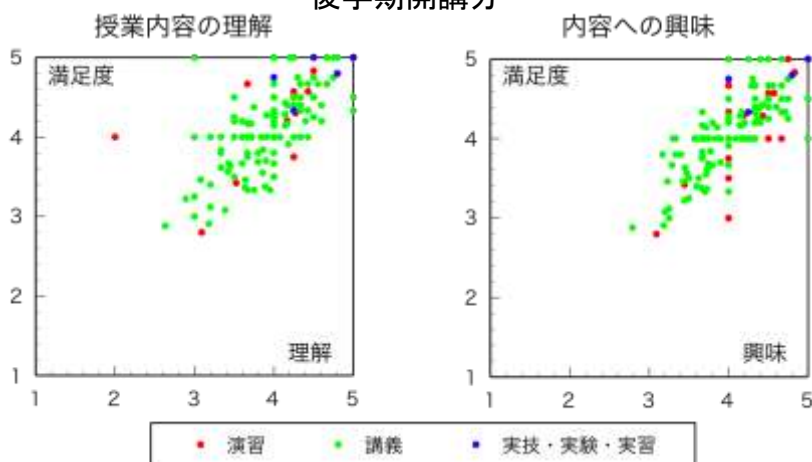
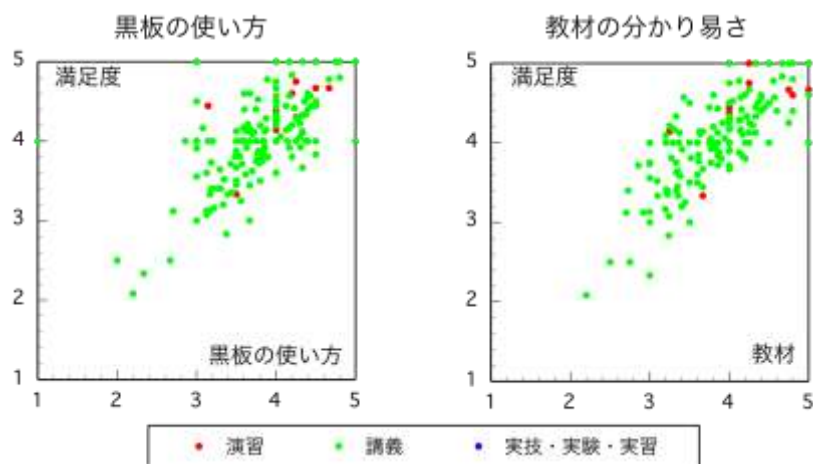


図42 満足度と授業内容の理解と興味との相関

部の場合とは異なり、満足度の大小にかかわらず、速いと評価されている側へ分散が広がっている。

教員の態度である「授業を分かり易くする工夫」、「質問への対応」と「満足度」の相関を図46に示す。「分かり易くする工夫」と「満足度」は明瞭な相関関係が認められ、学部の場合と同じく、工夫を凝らしている授業ほど学生は高い満足を得ているようである。また、「学生への対応」で評価の高い科目ほど「満足度」が高くなる傾向も学部のそれと類似している。

前学期開講分



後学期開講分

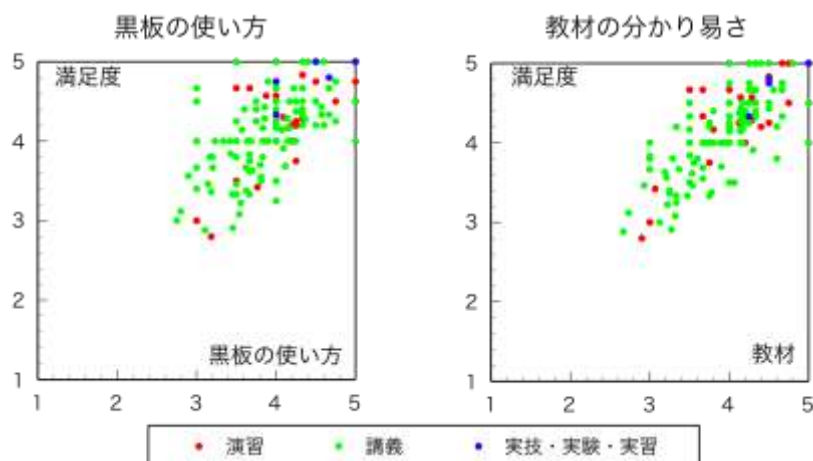
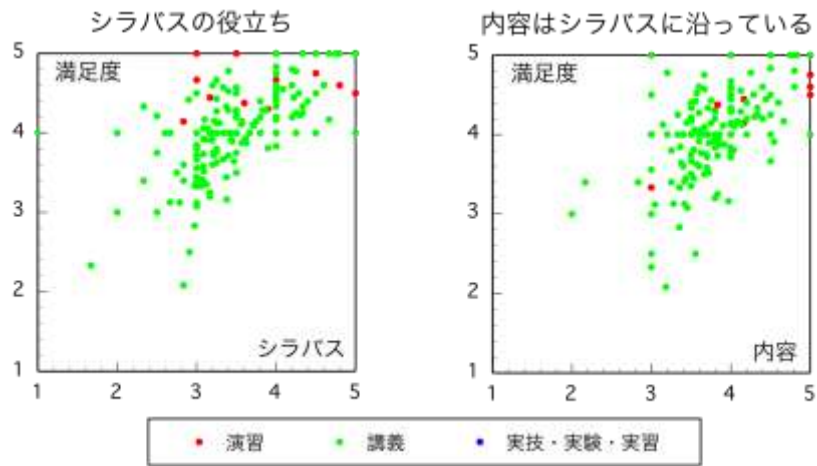


図43 満足度と黒板の使い方, 教材の分かり易さとの相関

前学期開講分



後学期開講分

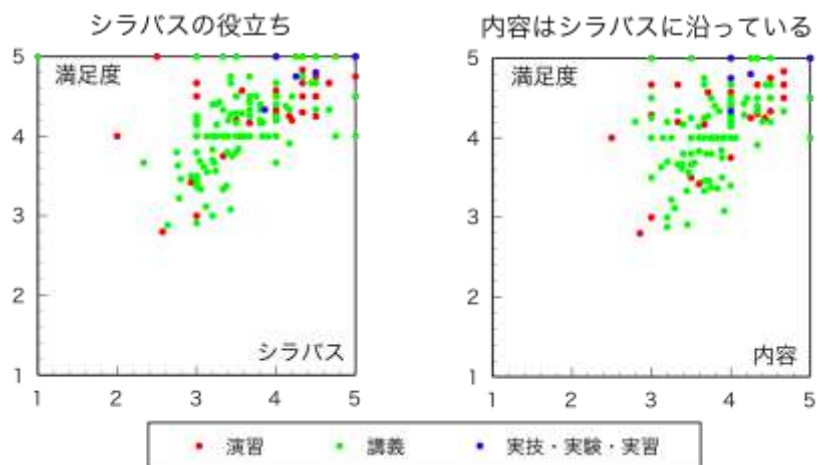
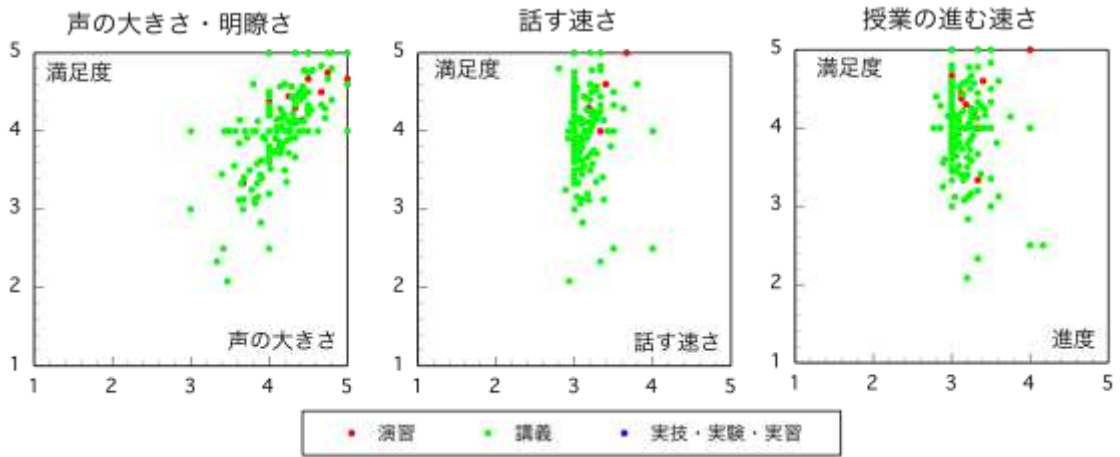


図44 満足度とシラバスの役立ち, シラバスの内容との相関

前学期開講分



後学期開講分

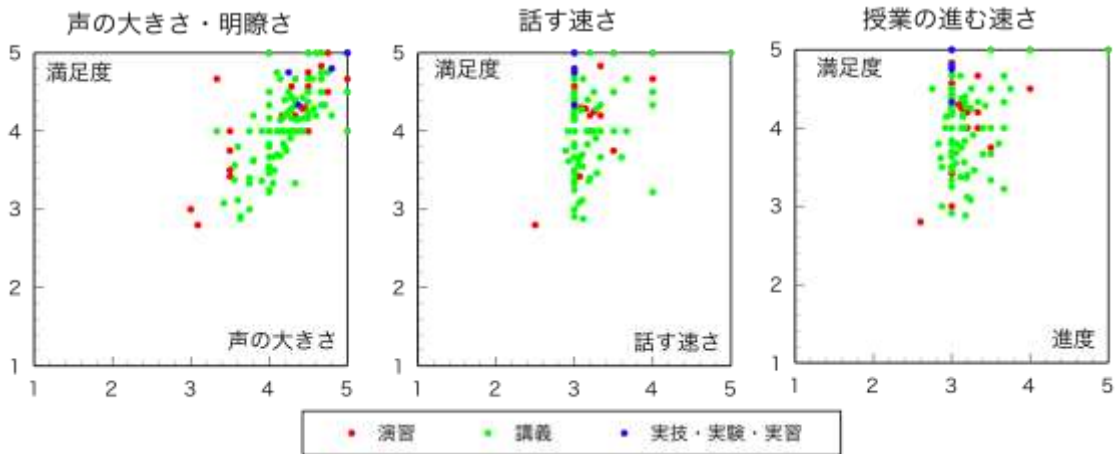
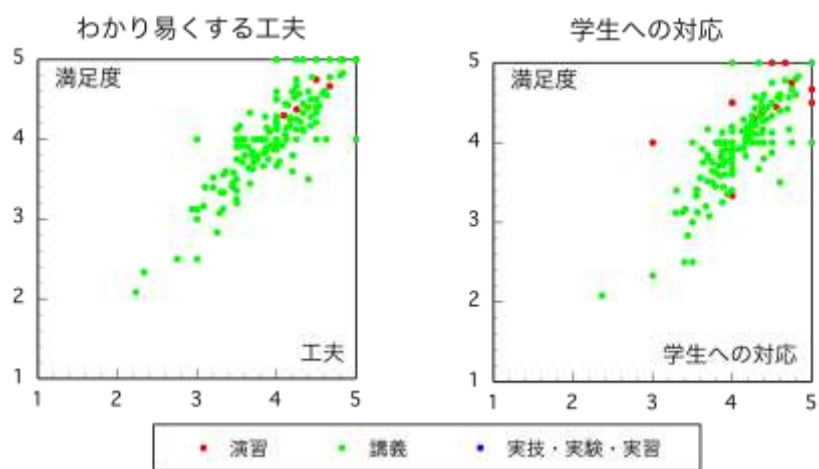


図45 満足度と声の大きさ速度との相関

前学期開講分



後学期開講分

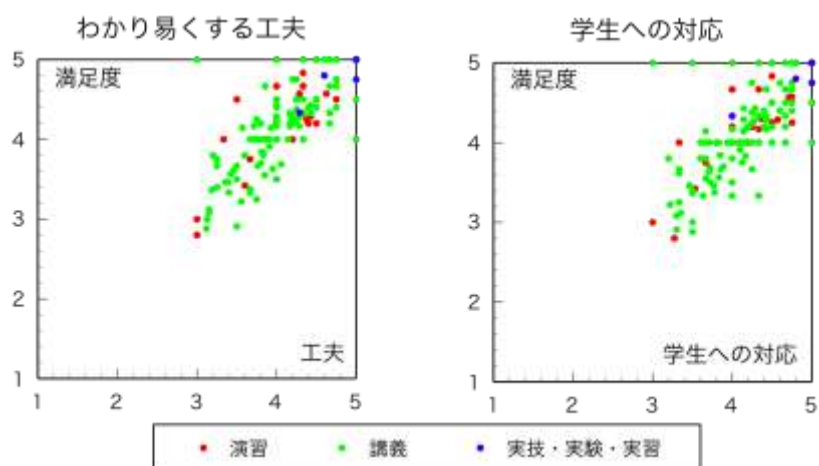


図46 満足度と教員の態度との相関

Ⅲ-(4) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準

1. 文化教育学部

文化教育学部では、学部 FD 委員会にて学生から高い評価を得ている授業科目の選考基準を協議し、満足度及び興味・関心の 2 項目を合計した値を用いることとしている。なお、対象となる科目は受講生が 10 名以上の科目であり、学部、大学院別に講義と(実習・実技・演習)のそれぞれのグループにおいて抽出することとしている。

2. 経済学部

特に選考は行っていない。

3. 理工学部

<数理科学科>

数理科学科 FD グループ会議における多角的検討の結果、アンケート項目における満足度が、学生による対象評価科目の状況を最もよく表しているという結論に達した。そこで今回も前回と同様に満足度を中心に検討した。大学院開講科目、特別研究、数学講究及び卒業研究、回答数が 14 以下の科目は対象外の取り扱いとした。今回対象とした科目の最低回答数は 20 である。

授業改善のため選ばれた 2 名の先生方による講習会を 4 月以降の早い時期に行う。講習会とは別に、ご本人による授業に関する工夫などをまとめた文書を数理科学科教員全員へ配布する。

<物理科学科>

共通アンケートを利用した科目について学科全体で集計を行い、アンケートの全項目において平均点と標準偏差を計算し、各項目で平均点の高い順に 3 科目ずつと標準偏差、最高スコアと最低スコアの差を表にして全教員に配布した。ベスト 3 にリストされた科目の担当教員は他の教員の求めがあれば、授業参観の受入、資料の提供などを通じて授業改善に資する情報を提供することが取り決められている。

<知能情報システム学科>

共通アンケート実施科目について学科集計を実施し、満足度 (D 項目) の上位科目を報告した。

<機能物質化学科>

従来、機能物質化学科では、学生による授業評価アンケートを基にして授業ごとに総合点をつけ、その順位が高い授業を担当している教員を「ベストプロフェッサー」として表彰していた。しかし、平成18年度後学期より、特別研究、卒業研究、学生実験、演習なども授業評価アンケートの対象となり、今までおこなってきた、講義の満足度だけでは比較できなくなってきた。そこで、卒業式の時に卒業生（大学院修了生も含む）に、「ベストプロフェッサー」を投票（2名連記）していただき、謝恩会の時に表彰している。

<機械システム工学科>

教員の教育顕彰に関する以下の申し合わせを作成し、それにのっとり実施している。

<電気電子工学科>

学科内で専門科目の各項目のスコアが良い科目を公表し、スコアの良い科目の担当者は他の教員の要請があれば、授業や資料の公開などを通して情報を提供する。

<都市工学科>

都市工学科のカリキュラムをこれまでの土木工学主体の教育体系から、建築・都市デザイン系のコースを新たに導入した教育システムを平成18年度に導入した。新たな教育体系では座学のみを講義を減少させ、演習、デザイン演習、実習等の充実を図った。これらの教育内容及び教育方法が成果を挙げるまでには少なくとも3年間は必要である。それまで各教員は授業方法について試行錯誤が続くものと思われる。学生による授業評価は教育改善にとって貴重な情報をもたらしてくれるので積極的に活用して授業改善に取り組むが、その評点が教育方法の優劣に繋がっているとは考えにくい。

教育システムが安定する19年度以降、学生から受ける評価とは何か、どのように選考するかを検討してから実施する。

4. 農学部

学生の単なる人気投票に陥らないためには、個別授業評価の授業に対する満足度に偏らず、授業内容への興味が増したか、授業内容の理解度、予習復習の状況等複数の基準を総合して、あるいは複数の選考基準において並列選考する必要もあると考えられる。

また、個々の授業を履修している際に調査した結果と卒業時あるいは卒業後社会に出てから、学生自らが過去を俯瞰しての評価が異なる場合も多い事が示唆されている事から、今後は、卒業時、あるいは卒業生等の意見を積極的に収集することも重要であると考えられる。

更に、大人数に対して行う講義科目より、少人数で行う実験科目等の方が総じて満足度が高い傾向にあるので、これらの点について、講義のあり方のみならずアンケートの実施方法についても考慮する必要がある。

5. 教養教育運営機構

現在当機構では、この項目に対する明確な選考基準の確定に至っておらず、機構内の、部会教員会議、企画委員会、教務委員会、FD委員会、運営委員会、協議会等で、実施可能な選考基準およびそのFD活動への効果的な活用法を検討中である。

選考基準の確定に至らなかった主な原因は以下の通りである。

- ・ 「高い評価を受けている授業」の定義自体が非常に困難であること。
- ・ 当機構が開講している教養教育科目は、学部や学科が開講している科目と大きく異なり、履修者の出身学部学科、当該教科に対する履修時の知識レベルの分散が大きいこと。
- ・ 主題科目では、抽選による履修者決定が行われることが多いため、当該教科に対する興味が薄い場合も少なくないこと。
- ・ 当機構では、基本的に部会単位で開講科目をマネジメントしているが、各部会によって開講講義の形態や性質が異なり、機構全体で選考基準を統一することが困難であること。

IV 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点

1. 文化教育学部および教育学研究科

文化教育学部および教育学研究科において、それぞれ前年度に引き続き組織別授業評価を実施した。今年度からこの組織別評価は講義と演習・その他（実験、実習）に区別し、課程ごとに分析をおこなった。しかしこの結果をどのように授業改善やカリキュラム改善につなげていくかについては検討の余地があり、関係委員会等との調整を図る必要がある。

今年度の改善目標であった「教育実習」における授業評価アンケートについては、独自の学生による教育実習評価アンケート（296名分）を行い、その集計を行った。

複数の教員で実施されている授業科目では、アンケートの評価が曖昧になることが危惧される。また、アンケートを回収する際に教員が回収に関与しない、といった基本的な方策の改善が望まれる。なお、分析データの不備が多々見受けられ、全学的な科目と授業評価アンケートとの整合性を図る必要がある。

2. 経済学部および経済学研究科

学部

【優れた点】

- ① 講義・演習を含むすべての科目について科目別授業評価アンケートの対象としている。
- ② 演習のようにすべての教員に共通する科目についてのFD研究会を行い、内容の充実を図っている。
- ③ 科目別授業評価アンケートとは別に教員が独自に学生の意見聴取を行っている例がある。
- ④ 科目別授業評価アンケートの結果を、カテゴリー別（講義、演習）、に集計し、学部全体としての傾向を捉え、組織的な改善への取り組みを始めた。

【改善を要する点】

- ① 科目別授業評価アンケートの結果を改善に結びつけるためのシステムが確立していない。
- ② 演習についても原則として共通の科目別授業評価アンケート書式を利用しており、演習独自の授業改善のために有益な授業評価ができていない。

研究科

【優れた点】

- ① 講義・演習を含むすべての科目について科目別授業評価アンケートの対象としている。
- ② 留学生と学部長の懇談会を実施し、留学生の意見を聴取している。
- ③ 社会人学生の教育について FD 研究会を行うなど、大学院特有のニーズに沿うような改善の取り組みを行っている。

【改善を要する点】

学部の演習と同様に少人数であるため、独自の授業改善のために有益な授業評価ができていない。

3. 理工学部および工学系研究科

優れた点：

(1) 授業評価アンケートの集計とその利用に全学科で独自の取り組みを実施している。

学科内での共通アンケート全科目を集計し、各教員に配布（数理，物理，知能，機能物質化学，機械システム，電気電子）

昨年度の集計結果との比較分析（物理）

成績データとの関連も利用した授業点検（機械システム）

集計結果や授業改善計画をホームページに学内限定で掲載（機能物質化学、電気電子）

(2) 科目別授業評価アンケート以外に教育課程や学習支援について学生の意見聴取を実施している。（学科によっては数年に一度）

(3) JABEE 受審学科においては、卒業生など学外関係者に対して独自アンケートを実施している。（学科によっては数年に一度）

改善すべき点：

理工学部

・昨年度後期から改まったアンケート様式であるため、過去の実績と比較して改善しているかの検証が不十分である。

・組織別授業評価を実施しなかった学科があるので、全教員の協力のもと、組織的な授業評価と授業改善への活用を実施すべきである。

工学系研究科

- ・殆どの専攻で授業評価を始めたのが平成18年度後期からで、検証が不十分である。
- ・殆どの科目で履修者数が少数で、系統的な分析が不可能である。独自アンケートでの意見聴取が適している科目は独自アンケートを採用すべきである。
- ・一部の専攻で、授業評価を実施していない科目数が増えているので、授業評価の実施を徹底する必要がある。
- ・博士後期課程は、開講科目数も少なく、その中でも学生による授業評価を実施している科目は少数である。

4. 農学部および農学研究科

優れた点：

多くの科目についての調査結果から、授業に対する満足度と授業内容への興味、学生に対する対応等に相当の科目において満足を示す結果が得られており、農学部で行なわれている授業は、「学生の視点」から見て概ね良好であると考えられる。

改善を要する点：

授業に対する満足度、内容への興味、及び学生に対する対応などについては、正の相関が認められる一方、満足度と予習・復習の時間、授業内容の理解度、シラバスの活用状況等の間の相関は小さいことがデータからも示された。すなわち、アンケート結果の、満足度・興味のみを基に授業の最適化を行う事は、授業その物の陳腐化を招く事にもなりかねない。したがって、現行の授業評価アンケートの結果に基づいて、安易に授業内容および到達度を低く修正するといった対応を行うことは、学部全体のカリキュラムの崩壊を引き起こしかねないことから、慎重に対処すべきであり、予習・復習の時間の確保等、講義内容の理解度を設定した目標まで高めるための具体的な方策について早急に改善を行う必要がある。

優れた点：

農学研究科では少人数による授業科目が多いことから、満足度・理解度・興味・学生に対する対応ともに学部における授業科目より高い傾向にある。

改善を要する点：

外国人留学生向けの科目が多いことから、共通アンケート様式についても早急に留学生向けのフォーマットを作成する必要がある。

5. 教養教育運営機構

優れた点：

特になし

改善すべき点：

授業改善に対する取り組みとして、FD講演会の開催、授業評価アンケートの実施、TA実施報告書の作成、および授業点検・評価報告書のオンライン入力を行ったが、実施の過程で次の点の改善が必要となった。

・アンケート実施方法の統一

1 教員が1科目で多数の曜日別クラスを教えている場合に、教員によっては独断で全クラスの結果をまとめてしまっている例が見られた。この場合、クラス間での結果比較や、教員の習熟度（同じ講義でも2回目以降の方が効率的になるなど）の調査を行うための基礎データがなくなってしまうという問題点がある。

・授業評価実施方法の多様化

主題科目の中には、eラーニング形式の授業や、主題分野を横断した総合型講義が開講されているが、VOD (Video On-Demand)形式のeラーニング授業の場合、OCR用紙形式の授業評価アンケートは困難である。これらの授業形態にマッチした授業評価方法の整備が急務である。

・授業評価・改善報告書の入力緩和複数教員によるオムニバス形式の場合、担当する全教員が名簿閲覧や改善報告を入力できるようにすれば、利便性、提出率向上両面で効果があると考えられる。成績に関しては、代表者入力はやむを得ないと考える。

V 次年度の授業改善目標

1. 文化教育学部および教育学研究科

全学的に授業点検・評価報告書の作成と公表が始まったが、授業評価アンケートとともにいかにしてこれらを有機的に授業改善に役立てるかが課題としてなお残っている。なお、複数の教員が担当する授業に関して、いかにして有効な授業評価アンケートを実施するかを検討したい。また非常勤講師の授業ではアンケートが実施されないことが見受けられるので、アンケートの実施を徹底するように指導を行いたい。

教育学研究科では小人数教育における学生の授業評価の方法が問題である。アンケートを実施すること自体に疑問を抱く教員が存在する。有効な方策を検討したい。

2. 経済学部および経済学研究科

科目別授業評価アンケートの結果に基づき FD 研究会を行うなど、組織的な改善の取り組みをさらに進める。

演習について、共通アンケート以外の授業評価の書式・方法を検討する。その際、評価の公正さおよび学生の負担の軽減等に配慮する。

研究科での講義は少人数が多く、学部の演習と共通する特徴を持っているので、共通のアンケート以外の授業評価の書式・方法を検討する。

3. 理工学部および工学系研究科

理工学部：

共通様式による授業評価アンケートの実施は徹底され、全学科で独自の集計・分析がされており、各学科で評価の高い授業科目の情報を利用する試みが実施されている。評価結果に基づく個別の授業改善目標については、Live Campus 上の授業点検評価報告書に記載されている。但し、現在の様式になってから1年しか経過していないので、この改善の試みが効果を上げているかの分析は今後必要である。

工学系研究科：

昨年度から、特別研究などの小人数教育における学生の授業評価の方法がかなり問題となっていた。来年度は特別研究は廃止され、研究指導計画に基づく研

究指導実施報告書が作成される予定なので、その作成・提出を徹底する必要がある。

授業科目については、少人数科目が多く、共通アンケートの結果から授業改善の方向を見極めるのは困難であると思われるので、独自アンケートや単位取得率等の多角的な分析が必要だろう。

博士前期課程では、平成19年度から必修科目の導入等、教育課程の再編が行われたので、その教育効果の検証が必要である。

4. 農学部および農学研究科

学部：

- 1) 共通アンケートの実施率および回収率を高める。本年度は、複数教員の担当する科目等で、事務的な処理の混乱があり回収率の低下に繋がったと考えられることから、アンケート実施前の実施担当科目、担当者の確認などの作業手順の検討も行なう。又、回収されたデータの集計においても、混乱が見られたことから、集計方法についても再度検討する必要がある。
- 2) 通年科目等については、アンケートの実施時期、及び算入時期を検討する。
- 3) 予習・復習の時間を確保するための方策を検討する。
- 4) 授業内容の難易度および到達目標についての再検討を行う。

大学院：

- 1) 共通アンケートの実施率および回収率を高める。
- 2) 通年科目等については、アンケートの実施時期を検討する。
- 3) 留学生向け科目でのアンケート実施法について検討する。
- 4) 研究指導計画の作成とこれに基づいたきめ細かな指導を行う。

5. 教養教育運営機構

平成19年度の取り組み状況に基づき、下記の目標を設定した。

1. 授業評価アンケートの完全実施
2. 授業点検・評価報告書提出率向上
3. アンケート実施方法、集計方法の再検討

(今後は、鍋島キャンパス開講 vs 本庄キャンパス開講などの多様な比較が必要)

4. アンケート実施依頼や報告書作成依頼書類の英語版の作成
5. eラーニング授業用の授業評価アンケート方法の整備

おわりに

以上述べてきたように平成 19 年度は、昨年度から続けられてきた学生による授業評価の転換期にあると思われる。平成 19 年度の授業評価アンケートの実施率は、前年度と同水準が維持されており、教員の FD に対する意識もほぼ定着してきたように見える。しかしながら、佐賀大学の全ての教員がその趣旨を理解し、協力しているのかと問われれば、答えは否定的にならざるを得ない。平成 19 年度からは、教員ひとりひとりが「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」に基づき、「授業点検・評価報告書」を提出しなければならないが、その提出率は 70%以下であった。もちろん、この提出率だけを見て FD 活動全体を議論することはできないが、授業評価や授業改善に前向きでない教員が居ることも確かである。今後、そのような教員にどのような働きかけを行うかが、課題となるであろう。その問題を解決するには、組織的な FD 活動をさらに発展させ、個々の教員の意識を高める必要がある。全国的に見て、学生による授業評価結果を開示している大学はごく僅かであり、多くは解析結果のみを公開している。佐賀大学も解析結果のみを開示しているが、そのかわりに個々の教員が自分の授業評価結果を見て授業改善について報告する「授業点検・評価報告書」を提出することを義務づけている。この授業点検・評価報告書は学内限定で公開されており、学生は教員の授業改善意識をみていることになる。このことは授業改善に消極的な教員に対して良い意味での圧力になり、授業改善に向けて積極的に取り組んでもらえることが期待されている。

平成 20 年度からは FD の義務化が始まることもあり、大学としても積極的に FD を推進し、佐賀大学の教育改革を行う必要に迫られている。

資料1 項目の基礎集計表

<学部 平成19年度前学期>

A-1出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.25	0.31	1.40	11.09	86.84	0.11
経済学部	0.90	1.26	4.68	13.65	79.35	0.17
理工学部	0.18	0.25	0.93	8.01	90.54	0.08
農学部	0.34	0.10	0.37	6.42	92.69	0.07
教養教育運営機構	0.14	0.24	1.45	8.80	88.73	0.64

A-2: 予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	65.07	25.71	4.91	1.50	2.30	0.51
経済学部	70.50	19.66	5.43	2.08	2.13	0.19
理工学部	55.46	33.98	6.98	1.68	1.78	0.11
農学部	64.42	25.93	5.88	1.66	1.94	0.17
教養教育運営機構	65.15	24.19	5.57	1.20	1.25	2.64

A-3: 復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	60.89	30.57	4.45	1.23	2.12	0.73
経済学部	64.97	26.96	4.17	2.13	1.36	0.41
理工学部	38.65	42.55	11.21	2.95	4.33	0.31
農学部	49.20	39.28	7.54	1.83	1.80	0.34
教養教育運営機構	62.28	29.46	3.77	0.78	0.78	2.92

A-4: この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.05	2.12	5.11	24.05	56.28	11.03	0.36
経済学部	1.36	4.19	8.32	31.71	42.45	11.56	0.41
理工学部	0.91	4.34	10.37	34.46	43.06	6.35	0.52
農学部	0.85	1.94	6.22	30.55	52.74	7.24	0.48
教養教育運営機構	1.25	4.88	9.95	32.91	42.88	7.29	0.84

A-5: この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.03	1.87	5.47	22.56	54.38	14.14	0.55
経済学部	0.75	3.54	7.10	24.53	47.44	16.10	0.53
理工学部	0.55	3.15	7.11	28.36	48.51	11.55	0.76
農学部	0.68	1.46	5.47	25.48	53.79	12.47	0.65
教養教育運営機構	0.93	3.70	8.56	26.38	47.26	12.13	1.05

B-1: この授業の内容は理解できる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	0.37	1.38	5.56	17.99	61.99	12.62	0.10
経済学部	0.41	2.25	7.98	25.60	51.42	12.22	0.12
理工学部	0.31	4.53	13.18	34.57	42.85	4.37	0.18
農学部	0.31	2.11	8.05	28.07	54.74	6.52	0.20
教養教育運営機構	0.66	3.20	8.05	25.94	52.09	9.36	0.70

B-2:この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりに思う	なし
文化教育学部	0.29	1.68	6.06	23.00	49.79	18.90	0.29
経済学部	0.36	3.59	9.99	28.87	41.94	15.08	0.17
理工学部	0.31	5.76	14.05	38.97	34.59	6.00	0.31
農学部	0.48	2.48	7.48	30.92	46.55	11.89	0.20
教養教育運営機構	0.60	4.52	10.38	28.81	42.45	12.36	0.87

B-3:黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりに思う	なし
文化教育学部	6.73	2.35	9.77	31.06	39.58	9.84	0.67
経済学部	3.39	3.93	11.01	32.95	37.62	10.47	0.63
理工学部	2.21	5.33	12.93	38.79	34.39	5.83	0.52
農学部	3.60	1.80	8.02	32.65	44.99	8.66	0.27
教養教育運営機構	6.58	3.64	10.28	33.94	34.80	7.23	3.54

B-4:教材(テキスト, 配付資料, その他)はわかりやすかった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりに思う	なし
文化教育学部	6.78	1.37	5.98	26.98	46.71	11.46	0.73
経済学部	4.73	2.55	7.64	34.01	40.41	10.38	0.29
理工学部	2.38	4.34	11.73	40.71	34.74	5.63	0.48
農学部	4.93	1.80	8.63	35.27	42.37	6.56	0.44
教養教育運営機構	9.15	3.20	8.39	34.28	34.86	6.61	3.50

B-5:シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりに思う	なし
文化教育学部	32.56	3.47	6.08	32.52	19.54	4.90	0.92
経済学部	25.58	5.48	8.22	33.58	19.88	6.72	0.56
理工学部	14.72	6.26	12.02	41.92	20.96	3.65	0.48
農学部	27.15	3.53	8.90	40.47	16.51	2.96	0.48
教養教育運営機構	20.79	6.50	11.43	41.58	15.26	3.02	1.43

B-6:授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりに思う	なし
文化教育学部	37.07	0.84	1.96	27.48	25.98	5.89	0.77
経済学部	32.63	1.21	1.75	29.33	26.52	7.95	0.61
理工学部	21.19	1.91	3.64	36.33	30.97	5.40	0.56
農学部	32.52	1.36	2.41	35.00	24.57	3.77	0.37
教養教育運営機構	28.92	1.49	3.00	36.42	24.48	4.20	1.49

B-7:声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりに思う	なし
文化教育学部	0.61	1.26	5.38	14.66	56.76	20.85	0.49
経済学部	0.53	2.42	6.45	17.31	52.36	20.29	0.63
理工学部	1.04	3.17	7.04	25.28	51.94	10.98	0.55
農学部	0.85	1.39	3.67	20.22	60.04	13.35	0.48
教養教育運営機構	0.75	2.29	5.73	18.87	53.80	17.45	1.11

B-8: 話す速さは適切だった

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.07	0.17	1.59	85.61	9.46	1.37	0.74
経済学部	1.48	0.39	2.21	80.15	12.99	1.99	0.80
理工学部	2.24	0.56	2.16	78.48	13.21	2.35	1.00
農学部	1.87	0.27	0.99	83.59	10.91	1.50	0.88
教養教育運営機構	1.65	0.41	2.20	81.52	10.72	2.09	1.41

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.99	0.36	3.05	82.01	9.82	1.64	1.13
経済学部	2.64	0.53	2.72	77.84	13.02	2.18	1.07
理工学部	2.68	0.52	2.02	69.69	19.39	4.52	1.17
農学部	1.97	0.31	1.56	75.60	16.00	3.40	1.16
教養教育運営機構	2.71	0.55	3.46	76.62	12.23	2.75	1.68

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	1.89	1.60	5.62	22.17	55.24	12.76	0.72
経済学部	5.87	2.67	6.84	28.22	43.61	12.34	0.46
理工学部	1.54	4.33	8.96	36.04	42.74	5.62	0.77
農学部	1.26	1.36	5.50	28.47	53.89	8.83	0.68
教養教育運営機構	2.64	2.75	7.21	30.79	47.28	8.07	1.26

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	5.57	1.03	2.63	20.67	52.10	17.00	0.99
経済学部	21.65	1.26	2.06	22.62	36.61	15.03	0.78
理工学部	5.67	2.38	4.01	33.04	44.95	8.98	0.97
農学部	4.86	0.85	2.45	25.72	53.62	11.59	0.92
教養教育運営機構	10.44	1.52	3.47	27.96	43.75	11.44	1.43

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	0.55	1.60	4.97	20.91	47.83	18.19	5.95
経済学部	1.02	3.64	6.81	26.55	42.01	15.01	4.97
理工学部	0.88	5.02	9.29	37.26	35.63	5.68	6.25
農学部	0.75	1.83	6.29	27.76	46.21	10.77	6.39
教養教育運営機構	1.12	3.92	7.50	28.06	42.37	12.11	4.93

＜学部 平成 19 年度後学期＞

A-1出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.12	0.25	1.35	12.78	85.39	0.12
経済学部	0.88	1.15	3.68	15.46	78.80	0.03
理工学部	0.29	0.20	1.15	8.84	89.39	0.13
農学部	0.07	0.21	0.91	8.71	89.92	0.18
教養教育運営機構	0.23	0.32	1.63	12.34	85.33	0.15

A-2: 予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	65.06	23.94	5.42	1.43	3.16	0.99
経済学部	66.85	24.76	4.29	1.90	2.20	0.00
理工学部	52.25	34.38	7.78	2.08	2.90	0.60
農学部	63.05	27.26	4.88	1.69	2.95	0.18
教養教育運営機構	63.76	25.72	6.05	1.46	1.45	1.57

A-3: 復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	61.42	29.52	4.23	1.04	2.59	1.19
経済学部	65.82	27.17	3.96	1.27	1.60	0.18
理工学部	37.76	41.95	12.06	3.25	4.19	0.79
農学部	50.44	39.59	6.50	1.37	1.76	0.35
教養教育運営機構	64.50	28.45	3.73	0.71	0.91	1.70

A-4: この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	0.94	1.48	4.01	20.26	59.30	13.61	0.39
経済学部	1.00	4.02	7.13	30.22	46.35	10.96	0.33
理工学部	0.55	3.39	8.10	32.17	47.25	7.79	0.74
農学部	0.39	1.97	5.66	29.79	51.32	10.61	0.28
教養教育運営機構	0.86	3.69	8.21	30.72	47.08	9.16	0.29

A-5: この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	0.99	1.25	4.14	19.49	56.88	16.68	0.57
経済学部	0.66	2.72	6.34	25.57	47.13	16.85	0.72
理工学部	0.34	2.50	5.67	26.81	50.62	13.05	1.01
農学部	0.49	1.55	5.37	27.22	51.11	13.77	0.49
教養教育運営機構	0.75	2.73	6.37	25.18	50.15	14.32	0.51

B-1: この授業の内容は理解できる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのおりに思う	なし
文化教育学部	0.20	1.03	4.14	15.29	64.09	15.17	0.07
経済学部	0.54	2.54	8.88	25.75	53.35	8.85	0.09
理工学部	0.44	3.48	10.59	33.23	46.83	4.95	0.47
農学部	0.63	1.93	6.99	27.85	56.59	5.97	0.04
教養教育運営機構	0.45	2.71	7.36	22.93	55.84	10.56	0.15

B-2:この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
文化教育学部	0.23	1.42	4.84	19.36	52.70	21.29	0.16
経済学部	0.66	3.32	9.39	28.14	45.53	12.80	0.15
理工学部	0.48	4.64	12.74	37.14	37.61	6.77	0.61
農学部	0.67	1.93	6.85	28.38	50.61	11.35	0.21
教養教育運営機構	0.35	3.50	8.67	27.64	45.83	13.64	0.37

B-3:黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
文化教育学部	8.36	1.62	8.20	28.64	40.96	11.06	1.16
経済学部	4.59	3.71	11.96	33.06	37.05	9.09	0.54
理工学部	3.30	4.04	10.35	37.94	37.34	6.19	0.84
農学部	7.45	2.74	7.31	31.51	43.10	7.48	0.42
教養教育運営機構	5.56	2.86	8.52	32.32	39.43	8.21	3.09

B-4:教材(テキスト, 配付資料, その他)はわかりやすかった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
文化教育学部	7.94	1.04	4.39	26.10	47.20	12.41	0.91
経済学部	4.80	2.66	8.15	32.10	42.39	9.39	0.51
理工学部	3.54	3.34	10.27	40.49	35.83	5.74	0.79
農学部	8.39	2.04	6.99	33.33	42.57	6.36	0.32
教養教育運営機構	7.47	2.36	6.76	32.76	39.90	7.81	2.95

B-5:シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
文化教育学部	32.87	2.36	5.00	32.16	21.70	5.35	0.57
経済学部	26.51	4.59	7.73	35.93	19.87	5.04	0.33
理工学部	12.99	4.87	9.85	43.06	24.67	3.81	0.75
農学部	27.64	3.16	6.78	38.85	20.09	3.02	0.46
教養教育運営機構	21.21	4.98	8.94	41.35	17.78	4.01	1.72

B-6:授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
文化教育学部	36.04	0.70	1.45	26.03	28.74	6.62	0.42
経済学部	32.76	1.24	2.17	31.43	25.94	5.98	0.48
理工学部	18.17	1.57	3.27	35.95	34.62	5.54	0.89
農学部	32.07	1.02	2.28	34.46	25.85	3.76	0.56
教養教育運営機構	27.43	1.35	2.76	35.56	25.90	5.24	1.77

B-7:声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
文化教育学部	0.80	0.99	4.17	13.49	58.22	21.96	0.38
経済学部	0.91	1.93	5.83	17.96	55.04	17.72	0.60
理工学部	1.82	2.40	6.40	23.89	53.76	10.88	0.85
農学部	4.39	1.58	5.69	20.41	55.64	11.84	0.46
教養教育運営機構	0.55	1.67	4.58	17.11	56.87	18.69	0.51

B-8: 話す速さは適切だった

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	0.74	0.16	1.49	87.30	8.17	1.30	0.83
経済学部	1.72	0.30	2.05	79.62	13.77	1.93	0.60
理工学部	2.83	0.45	1.88	80.65	11.07	1.86	1.27
農学部	4.53	0.14	0.88	80.89	11.17	1.55	0.84
教養教育運営機構	0.96	0.43	1.68	85.19	9.42	1.48	0.84

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.38	0.29	2.70	85.06	8.20	1.35	1.03
経済学部	2.63	0.33	2.90	77.63	13.77	2.05	0.69
理工学部	3.31	0.49	1.99	74.64	15.04	3.11	1.41
農学部	4.88	0.14	1.44	76.01	13.66	2.67	1.19
教養教育運営機構	1.56	0.58	2.93	80.25	11.44	2.02	1.22

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	1.12	0.96	4.25	20.01	58.12	15.13	0.42
経済学部	4.53	2.39	7.04	27.29	47.83	10.30	0.63
理工学部	2.17	3.00	7.93	34.38	45.29	6.21	1.02
農学部	2.00	1.69	4.39	28.84	54.62	8.04	0.42
教養教育運営機構	1.83	2.19	5.36	26.92	53.42	9.68	0.61

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	4.36	0.55	2.01	17.67	54.78	20.03	0.59
経済学部	14.40	1.18	2.08	25.97	41.30	14.10	0.97
理工学部	4.60	2.06	3.96	31.50	46.83	9.71	1.34
農学部	5.90	0.88	2.14	25.96	52.79	11.80	0.53
教養教育運営機構	8.67	1.38	2.56	26.46	47.84	12.27	0.82

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	0.42	1.17	3.68	17.38	50.94	20.52	5.88
経済学部	1.27	2.87	5.83	25.54	45.92	11.75	6.82
理工学部	0.67	3.76	8.50	34.57	39.35	6.75	6.39
農学部	0.35	1.86	4.64	26.62	49.35	10.57	6.60
教養教育運営機構	0.49	3.13	5.77	24.25	46.75	13.62	5.99

<平成 19 年度医学部アンケート結果>

講義に対する出席の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.91	4.66	18.72	19.64	55.67	0.40
実習科目	0.00	0.19	4.04	5.43	90.28	0.06
講義科目	0.21	0.86	5.68	11.64	81.56	0.05
全科目	0.37	1.90	9.48	12.24	75.83	0.17

復習や関連事項の自己学習の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.71	4.76	35.73	39.78	18.52	0.51
実習科目	0.82	1.89	30.93	41.41	24.87	0.06
講義科目	1.52	5.51	39.88	36.33	16.66	0.10
全科目	1.02	4.05	35.52	39.17	20.02	0.22

授業内容の修得, 理解度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.51	5.87	44.13	35.73	13.16	0.61
実習科目	0.38	1.89	31.76	43.81	22.10	0.06
講義科目	0.95	5.62	40.84	39.38	13.03	0.18
全科目	0.61	4.46	38.91	39.64	16.09	0.28

授業に対する総合的満足度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.51	2.13	27.23	43.93	25.71	0.51
実習科目	0.06	1.26	21.09	41.98	35.48	0.13
講義科目	0.52	2.71	25.13	43.50	28.08	0.06
全科目	0.36	2.03	24.48	43.14	29.76	0.23

教科目の重要性の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.00	1.11	16.19	34.62	47.57	0.51
実習科目	0.32	0.95	18.43	33.46	46.78	0.06
講義科目	0.21	1.29	14.32	35.47	48.64	0.06
全科目	0.18	1.12	16.32	34.51	47.66	0.21

授業内容に対して抱いた興味の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.30	1.82	23.08	40.38	33.91	0.51
実習科目	0.44	1.14	23.42	37.56	37.37	0.06
講義科目	0.39	2.00	23.87	41.72	31.91	0.11
全科目	0.38	1.65	23.46	39.89	34.40	0.23

講義の編成や内容における一貫性、統合性の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.61	3.54	38.56	35.83	20.95	0.51
実習科目	0.13	1.83	25.95	40.97	31.06	0.06
講義科目	0.37	3.18	32.80	40.05	23.45	0.15
全科目	0.37	2.85	32.44	38.95	25.15	0.24

授業に対する配分時間の妥当性

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	1.93	8.92	39.25	31.14	18.05	0.71
実習科目	1.33	3.79	34.15	32.64	27.97	0.13
講義科目	1.84	6.94	39.14	31.29	20.51	0.27
全科目	1.70	6.55	37.51	31.69	22.18	0.37

＜大学院 平成 19 年度前学期＞

A-1出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.62	4.98	94.39	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.37	96.63	0.00
工学系研究科	0.16	0.16	0.57	6.14	92.88	0.08
農学研究科	0.00	0.00	0.00	1.90	98.10	0.00

A-2: 予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	15.89	39.88	21.50	11.21	9.97	1.56
経済学研究科	6.74	16.85	21.35	20.22	34.83	0.00
工学系研究科	38.63	43.62	10.07	4.09	3.60	0.00
農学研究科	30.33	43.60	13.27	9.00	3.79	0.00

A-3: 復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	15.89	54.21	18.69	5.61	3.74	1.87
経済学研究科	7.87	22.47	17.98	24.72	26.97	0.00
工学系研究科	29.87	51.15	12.36	3.76	2.29	0.57
農学研究科	32.70	49.29	11.37	5.69	0.95	0.00

A-4: この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.31	1.56	6.54	60.75	30.53	0.31
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.12	43.82	52.81	2.25
工学系研究科	0.65	1.64	6.38	24.71	57.12	9.25	0.25
農学研究科	2.37	0.00	1.42	15.64	58.29	21.80	0.47

A-5: この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.31	0.00	3.43	19.31	49.22	27.10	0.62
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	4.49	40.45	51.69	3.37
工学系研究科	0.65	1.47	6.38	23.08	50.65	16.94	0.82
農学研究科	1.90	2.84	6.16	20.38	45.50	22.75	0.47

B-1: この授業の内容は理解できる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.31	4.05	67.91	27.73	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	55.06	44.94	0.00
工学系研究科	0.00	1.06	10.31	28.64	53.52	6.46	0.00
農学研究科	0.00	0.00	0.95	9.00	73.93	16.11	0.00

B-2: この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.62	4.98	42.06	52.34	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	48.31	51.69	0.00
工学系研究科	0.08	2.21	11.21	29.71	46.32	10.39	0.08
農学研究科	0.00	0.00	0.95	11.37	58.77	28.91	0.00

B-3: 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	15.26	0.00	1.25	17.13	42.06	24.30	0.00
経済学研究科	6.74	0.00	0.00	4.49	52.81	35.96	0.00
工学系研究科	2.13	2.45	8.10	32.00	45.17	9.90	0.25
農学研究科	3.32	0.00	2.37	11.85	55.92	26.54	0.00

B-4: 教材(テキスト、配付資料、その他)はわかりやすかった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	2.80	0.00	1.56	9.35	54.52	31.15	0.62
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	4.49	51.69	43.82	0.00
工学系研究科	5.40	1.96	9.74	33.22	39.77	9.82	0.08
農学研究科	3.32	0.00	2.84	13.74	59.72	19.91	0.47

B-5: シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	33.64	0.62	1.25	18.07	30.84	14.95	0.62
経済学研究科	2.25	0.00	0.00	1.12	53.93	42.70	0.00
工学系研究科	17.10	2.54	10.56	39.77	24.80	5.16	0.08
農学研究科	22.27	3.79	7.58	28.44	27.96	9.95	0.00

B-6: 授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	35.83	0.00	0.31	16.20	28.04	19.00	0.62
経済学研究科	2.25	0.00	0.00	1.12	46.07	50.56	0.00
工学系研究科	20.29	0.49	1.96	30.61	38.38	7.94	0.33
農学研究科	26.07	1.42	0.47	26.54	30.33	15.17	0.00

B-7: 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	3.12	51.71	44.86	0.31
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.25	46.07	50.56	1.12
工学系研究科	0.41	0.33	1.72	15.30	65.30	16.53	0.41
農学研究科	0.47	0.00	0.47	9.00	65.40	24.17	0.47

B-8: 話す速さは適切だった

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	89.72	6.85	2.49	0.93
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	80.90	12.36	6.74	0.00
工学系研究科	1.23	0.08	1.15	85.92	9.90	1.15	0.57
農学研究科	0.47	0.00	0.47	91.00	6.64	0.95	0.47

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.31	0.00	0.93	89.72	5.61	2.18	1.25
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	79.78	12.36	6.74	1.12
工学系研究科	2.13	0.33	2.05	77.82	15.06	1.80	0.82
農学研究科	0.47	0.00	0.47	88.63	8.53	0.95	0.95

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・わ からない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともいえ ない	そう思う	全くそのとおり だと思う	なし
教育学研究科	0.62	0.00	0.00	5.61	54.52	38.94	0.31
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.14	57.95	40.91	0.00
工学系研究科	0.82	1.47	5.73	29.87	52.62	8.92	0.57
農学研究科	1.42	0.00	2.37	12.80	60.19	22.75	0.47

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・わ からない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともいえ ない	そう思う	全くそのとおり だと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	3.74	40.50	55.45	0.31
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	53.41	46.59	0.00
工学系研究科	5.07	0.65	0.82	25.86	53.60	13.09	0.90
農学研究科	1.42	0.00	0.00	6.64	63.03	28.44	0.47

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・わ からない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともいえ ない	そう思う	全くそのとおり だと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	3.12	42.68	49.53	4.67
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	52.87	45.98	1.15
工学系研究科	0.49	2.45	6.30	25.37	50.16	9.90	5.32
農学研究科	0.00	0.00	0.95	7.11	61.61	26.54	3.79

＜大学院 平成 19 年度後学期＞

A-1出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.00	0.00	1.51	10.57	87.61	0.30
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00
工学系研究科	0.10	0.10	1.53	8.98	89.29	0.00
農学研究科	1.12	0.00	1.69	5.06	91.57	0.56

A-2: 予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	12.39	40.48	19.03	12.08	15.41	0.60
経済学研究科	5.80	28.99	15.94	17.39	31.88	0.00
工学系研究科	40.51	31.43	9.29	4.18	10.71	3.88
農学研究科	31.46	25.84	12.36	15.73	14.61	0.00

A-3: 復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	9.37	50.76	16.31	11.78	11.18	0.60
経済学研究科	7.25	26.09	24.64	10.14	31.88	0.00
工学系研究科	38.47	36.43	9.08	4.18	7.96	3.88
農学研究科	29.21	38.76	14.04	7.87	9.55	0.56

A-4: この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.30	0.30	5.14	51.06	42.30	0.91
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	7.25	40.58	49.28	2.90
工学系研究科	0.51	1.22	4.29	17.65	53.37	18.27	4.69
農学研究科	2.81	1.12	2.25	16.29	45.51	29.78	2.25

A-5: この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.91	0.30	2.11	13.29	44.71	37.76	0.91
経済学研究科	1.45	0.00	0.00	4.35	43.48	46.38	4.35
工学系研究科	0.92	1.63	3.27	15.41	51.22	22.86	4.69
農学研究科	5.62	1.69	3.93	16.29	42.13	28.65	1.69

B-1: この授業の内容は理解できる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	0.91	0.00	0.30	2.11	52.57	44.11	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	53.62	46.38	0.00
工学系研究科	1.33	1.22	4.49	20.41	57.04	11.43	4.08
農学研究科	3.93	1.12	0.00	11.24	58.99	24.72	0.00

B-2: この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	0.60	0.00	0.00	2.11	37.16	59.82	0.30
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.90	46.38	50.72	0.00
工学系研究科	1.33	1.33	5.92	18.57	49.49	19.18	4.18
農学研究科	4.49	1.12	1.12	14.61	50.00	28.65	0.00

B-3: 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	19.03	0.30	0.91	8.76	38.97	32.02	0.00
経済学研究科	1.45	0.00	0.00	7.25	47.83	43.48	0.00
工学系研究科	10.10	1.02	3.98	26.33	38.78	15.61	4.18
農学研究科	16.85	1.12	1.12	16.85	43.26	20.22	0.56

B-4: 教材(テキスト, 配付資料, その他)はわかりやすかった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	6.65	0.00	0.30	6.04	45.92	40.48	0.60
経済学研究科	1.45	0.00	0.00	0.00	55.07	43.48	0.00
工学系研究科	12.55	1.02	4.18	26.12	40.10	11.94	4.08
農学研究科	18.54	1.69	0.00	19.10	41.57	19.10	0.00

B-5: シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	26.89	0.91	1.21	14.80	28.70	25.98	1.51
経済学研究科	7.25	0.00	0.00	1.45	46.38	44.93	0.00
工学系研究科	19.80	2.76	6.84	34.90	24.49	7.14	4.08
農学研究科	28.65	5.06	3.93	28.65	18.54	15.17	0.00

B-6: 授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	26.89	0.00	0.91	11.78	29.31	30.21	0.91
経済学研究科	7.25	0.00	0.00	1.45	43.48	47.83	0.00
工学系研究科	22.65	0.51	1.73	24.90	35.82	10.20	4.18
農学研究科	32.02	2.25	0.56	21.35	29.21	14.04	0.56

B-7: 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりでと思う	なし
教育学研究科	1.21	0.00	0.30	1.81	40.48	56.19	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.90	39.13	57.97	0.00
工学系研究科	8.16	0.61	0.51	12.76	51.94	21.73	4.29
農学研究科	14.61	1.12	1.12	8.43	45.51	29.21	0.00

B-8: 話す速さは適切だった

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	1.51	0.00	0.30	90.94	5.74	1.51	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	79.71	8.70	10.14	1.45
工学系研究科	9.59	0.20	0.61	77.45	6.53	1.33	4.29
農学研究科	14.61	1.12	0.00	76.40	3.93	2.81	1.12

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	1.51	0.00	0.30	93.35	3.32	1.51	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	79.71	8.70	10.14	1.45
工学系研究科	8.57	0.41	1.53	75.92	7.55	1.53	4.49
農学研究科	14.61	1.12	1.12	75.28	3.93	2.81	1.12

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・わ からない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともいえ ない	そう思う	全くそのとお りだと思 う	なし
教育学研究科	0.60	0.30	0.30	1.81	29.61	66.16	1.21
経済学研究科	1.45	0.00	0.00	2.90	42.03	52.17	1.45
工学系研究科	8.16	0.92	0.82	17.86	47.65	20.41	4.18
農学研究科	6.18	1.12	1.12	11.24	50.00	28.65	1.69

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・わ からない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともいえ ない	そう思う	全くそのとお りだと思 う	なし
教育学研究科	0.30	0.00	0.00	1.81	33.23	58.31	6.34
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	7.25	34.78	55.07	2.90
工学系研究科	1.12	1.84	2.65	19.80	50.31	19.59	4.69
農学研究科	3.37	1.12	2.25	12.92	47.75	26.97	5.62

資料2 授業評価結果を用いた授業改善実施要領

(趣旨)

第1条 佐賀大学学生による授業評価実施要領（平成18年6月27日制定。以下「授業評価実施要領」という。）第2条に定める個別授業評価及び組織別授業評価の結果は、授業評価実施要領に定めるもののほか、この要領の定めるところにより、授業の改善を通じて教育の質の向上に利用するものとする。

(報告)

第2条 授業を担当する教員（非常勤講師を含む。）は、授業科目ごとに実施する授業評価の結果及び授業の改善目標について、所定の期間内に定められた方法により個別授業点検・評価報告書として提出する。

2 学部又は学科等（以下「教育組織」という。）は、個別授業評価及び組織別授業評価の結果に基づき、次に掲げる事項について組織別授業点検・評価報告書を作成する。

- (1) 各種アンケートの学科等別及び授業科目別の集計結果
- (2) 各種アンケートの結果から総合的に判断して、学生から高い評価を得ていると教育組織が認定する授業科目
- (3) 個別授業評価に係る情報が一切ない授業科目
- (4) 教育組織の授業改善の取組状況に係る優れた点及び改善を要する点
- (5) 次年度の学部又は学科等の授業改善目標

(報告書等の利用)

第3条 教育組織の長は、前条第2項に定める組織別授業点検・評価報告書に基づき、必要に応じて教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策を講じるものとする。

2 前条第1項の個別授業点検・評価報告書及び同条第2項の組織別授業点検・評価報告書は、教育組織が実施する研修会等に利用し、オンラインで公表する。

3 前条第2項第2号に該当する授業科目における取組は、授業の改善に広く資するよう、教育組織が実施する研修会等又は公開授業により周知する。

附 則

- 1 この要領は、平成18年12月22日から実施する。
- 2 この要領は、当分の間、医学部及び医学系研究科において実施される授業評価には適用しない。

附 則

この要領は、平成20年2月8日から実施する。

資料3 佐賀大学学生による授業評価実施要領

(趣旨)

第1条 授業改善を目的とする学生による授業評価(以下「授業評価」という.)の実施に関する事項は、この要領に定めるところによる。

(評価の実施)

第2条 授業を担当する教員(非常勤講師を含む.)は、授業科目毎に授業評価(以下「個別授業評価」という.)を実施する。

2 学部及び学科等の教育組織(以下「教育組織」という.)は、前項の個別授業評価等を分析し、教育組織毎に授業評価(以下「組織別授業評価」という.)を実施する。

(評価の支援)

第3条 大学は、授業評価の実施に必要な全学共通のアンケート用紙(以下「共通アンケート用紙」という.)を提供し、集計を行うなどの方法により、前条の授業評価の実施を支援する。

(個別評価結果の利用)

第4条 個別授業評価の結果は、授業担当者に提供し、授業担当者は、個別授業評価の結果を授業の改善等に利用するものとする。

2 前項の規定は、各授業担当者による評価結果の公表又は提供及び組織別授業評価のための集計を妨げるものではない。

3 個別授業評価の結果は、教員個人の評価には用いない。

4 個別授業評価の結果は、学生個人の成績評価に利用してはならない。

(組織別評価結果の利用)

第5条 教育改善のための調査研究を行う組織は、大学教育委員会の了承を得て、授業評価の結果を利用することができる。

(調査方法)

第6条 大学教育委員会は、個別授業評価のための共通アンケート用紙の様式その他の調査方法等について定める。

2 前項の規定は、教員又は教育組織が調査項目等を追加することを妨げるものではない。

(調査対象)

第7条 個別授業評価の対象となる授業科目は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 学部が開設する授業科目

(2) 教養教育運営機構が開設する授業科目

(3) 研究科が開設する授業科目

2 授業科目を開設する学部等(教養教育運営機構及び研究科を含む.)の長が、授業科目の特性により、共通アンケート用紙を用いて調査することが適切でないと判断した場合は、他の方法により調査することができるものとする。

3 第1項の各号に列記された授業科目以外の講習会等の評価については、実施組織の判断により、共通アンケート用紙を利用することができる。

(実施方法)

第8条 個別授業評価の実施，集計及び集計結果の公表の方法については，大学教育委員会 の議を経て，委員長が別に定める。

2 前項の規定は，教員又は教育組織が，独自の調査を実施することを妨げるものではない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるものの他，授業評価の実施に関して必要な事項は，大学教育委員会 の議を経て，委員長が定める。

附 則

1 この要領は，平成18年10月1日から実施する

2 この要領は，当分の間，医学部・医学系研究科には適用しない。

資料4 学生による授業評価アンケート様式

〈平成19年度後学期実施のアンケート〉

学生による授業評価アンケート

（佐賀大学）

このアンケートは、授業の改善に役立てる事を目的として実施するものです。回答は無記名で行い、その内容を成績評価に用いることは一切ありません。また、授業に当てはまらない質問は「該当しない」と回答し、どうしても回答しにくい質問については記入する必要はありません。皆さんのご意見は、今後の授業に生かされますので、率直にお答え下さい。

授業科目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
入学年度（西暦年を記入して下さい。）	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
学部・学科・課程	<input type="text"/>	<input type="text"/>	選修・コース・系等コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
学部・学科・課程、研究科・専攻等コード及び選修・コース・系等コードは、裏面を参照して下さい。							
記入例 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> <input type="text" value="8"/> <input type="text" value="9"/> <input type="text" value="0"/>							

（記入上の注意）

- この用紙は折り癖げたり、汚したりしないこと。
- 記入の方法及びマークの方法
 - ・目印程度のエンピツ、シャープペンシル等を使用すること。
 - ・枠をはみ出さないように記入すること。
 - ・記入しなおす場合は、誤った方をきれいに消すこと。

正しい例……

悪い例…… 、

この授業科目をあなたはどうか考えますか。以下の各項目それぞれについて、該当する番号を1つ選んでマークして下さい。

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか。

A-2 予習を毎週どの程度していますか。

A-3 復習を毎週どの程度していますか。

A-4 この授業の学習目標を把握している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している。

		20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上
A-1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
A-2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
A-3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
		説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している
A-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
A-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

B-4 教材（テキスト、配布資料、その他）はわかりやすかった。

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

B-8 話す速さは適切だった。

B-9 授業の進む速さは適切だった。

		該当しない わからない	全くそうは 思わない	そうは思わ ない	どちらとも いえない	そう思う	全くそのと おりだと思う
B-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-3	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-6	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-7	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
		該当しない わからない	かなり悪い	少し悪い	丁度良い	少し良い	かなり良い
B-8	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
B-9	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている。

		該当しない わからない	全くそうは 思わない	そうは思わ ない	どちらとも いえない	そう思う	全くそのと おりだと思う
C-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
C-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた。

		該当しない わからない	全くそうは 思わない	そうは思わ ない	どちらとも いえない	そう思う	全くそのと おりだと思う
D-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		

E. 指定項目①（この部分は教員の指示に従って記入して下さい）

E-1

E-2

E-3

E-4

E-5

		該当しない わからない	全くそうは 思わない	そうは思わ ない	どちらとも いえない	そう思う	全くそのと おりだと思う
E-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
E-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
E-3	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
E-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
E-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		

F. 指定項目②（この部分は教員の指示に従って記入して下さい）

F-1

F-2

F-3

F-4

F-5

		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
F-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
F-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
F-3	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
F-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		
F-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤		

この授業科目について気づいたことがあれば、何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

学部・学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部・学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部・学科・ 課程コード
		文化教育学部	学校教育課程	10	理工学部	機械システム工学科
国際文化課程			11	電気電子工学科		58
人間環境課程			12	都市工学科		59
経済学部		美術・工芸課程	13	農学部 (05以前入学者)	生物生産学科	70
		経済システム課程	35		応用生物科学科	71
		経営・法律課程	36	農学部 (06以降入学者)	応用生物科学科	72
医学部		医学科	41		生物環境科学科	73
		看護学科	42		生命機能科学科	74
理工学部		数理科学科	53	その他学部生	上記に属さない学部生	80
		物理科学科	54	その他	科目等履修生等	91
		知能情報システム学科	55			
		機能物質化学科	56			

学部・学科名称	選修・コース・系等名称	選修・コース・ 系等コード	学部・学科名称	選修・コース・系等名称	選修・コース・ 系等コード
	文化教育学部 学校教育課程	教育学選修	1	経済学部 経営・法律課程	企業経営コース
教育心理学選修		2	法務管理コース		34
障害児教育選修		3	理工学部 機能物質化学科	物質化学コース	51
数学選修		4		機能材料化学コース	52
理科選修		5	理工学部 都市工学科 (06以降入学者)	都市環境基礎コース	53
音楽選修		6		建築・都市デザインコース	54
教科教育選修		7	農学部 生物生産学科 (05以前入学者)	生産科学系	71
文化教育学部 国際文化課程	日本・アジア文化選修	11		環境情報工学系	72
	欧米文化選修	12	農学部 応用生産科学科 (05以前入学者)	応用生物学系	73
文化教育学部 人間環境課程	生活・環境・技術選修	21		農学部 生物環境科学科 (06以降入学者)	生物化学系
	健康福祉・スポーツ選修	22	生物環境保全学コース		75
文化教育学部 美術・工芸課程	美術・工芸選修	23	資源循環生産学コース	76	
	経済学部 経済システム課程	国際経済社会コース	31	地域社会開発学コース	77
		総合政策コース	32	その他学部生	上記に属さない学部生

研究科名称	専攻等名称	研究科・専攻 等コード	研究科名称	専攻等名称	研究科・専攻 等コード
	教育学研究科	学校教育専攻	15	工学系研究科(博 士前期課程)	機能物質化学専攻
教科教育専攻		16	物理科学専攻		61
経済学研究科	金融・経済政策専攻	37	機械システム工学専攻		62
	企業経営専攻	38	電気電子工学専攻		63
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	43	知能情報システム学専攻		64
	看護学専攻	44	数理科学専攻		65
医学系研究科 (博士課程)	機能形態系専攻	45	都市工学専攻		66
	生体制御系専攻	46	環境物質工学専攻		67
	生体系専攻	47	生体機能システム制御工 学専攻		68
農学研究科	生物生産学専攻	75	工学系研究科(博 士後期課程)		エネルギー物質科学専攻
	応用生物科学専攻	76		システム生産科学専攻	96
連合農学研究科		77		生体機能システム制御工 学専攻	97

資料5 共通様式以外のアンケート様式

<平成19年度実施の医学部のアンケート>

学生による授業評価アンケートⅠ（講義科目）

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏名

授業科目名

〔注意事項〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) ◁ ▷ の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。



※ 学 籍 番 号									
◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷	◁0▷
◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷	◁1▷
◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷	◁2▷
◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷	◁3▷
◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷	◁4▷
◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷	◁5▷
◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷	◁6▷
◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷	◁7▷
◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷	◁8▷
◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷	◁9▷

1. この授業に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高い	中 間	やや 低い	低 い
1) 講義に対する出席の程度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
3) 授業内容の修得、理解度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷

2-1. この授業科目全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高い	中 間	やや 低い	低 い
1) この授業に対する総合的満足度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
2) あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
3) 授業内容に対して抱いた興味の程度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
4) 講義の編成や内容における一貫性、統合性の程度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
5) 講義の工夫、講義資料等の活用・有効性の程度	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷
6) この授業に対する配分時間の妥当性	◁5▷	◁4▷	◁3▷	◁2▷	◁1▷

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。		
◁A▷ 学習要項(シラバス)と講義の内容が一致していない	◁B▷ 講義の内容がばらばらである	◁C▷ 講義内容に無意味な重複がある
◁D▷ 一方的な講義で追い付いていけない	◁E▷ 講義資料が分かりにくい	◁F▷ スライド、OHPなどが分かりにくい
◁G▷ 講義内容が多すぎる	◁H▷ 授業時間が多すぎる	◁I▷ もっと授業時間を増やして欲しい
◁J▷ 現行より早い時期に開講して欲しい	◁K▷ 現行より遅い時期に開講して欲しい	

2-3. この授業科目について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

.....

.....

2-4. この授業科目について、よかったと思うことを書いて下さい。

.....

.....

学生による授業評価アンケートⅢ（PBL授業科目）

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏名	
----	--

授業科目名	
-------	--

〔注意事項〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) 〆の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。

良い例 悪い例

※学 籍 番 号									
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>
<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>
<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>
<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>
<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>
<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>
<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>
<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>
<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>
<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>

1. この授業に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高	やや高い	中	やや低い	低
	い		間		い
1) 講義に対する出席の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容の修得、理解度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-1. この授業科目全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高	やや高い	中	やや低い	低
	い		間		い
1) この授業に対する総合的満足度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容に対して抱いた興味の種類	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
4) 講義の編成や内容における統一性、統合性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
5) シナリオに対する興味の種類	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
6) この授業に対する配分時間の妥当性	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。												
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 2px;">A: 講義の内容がばらばらである</td> <td style="width: 33%; padding: 2px;">B: 講義内容に重複がある</td> <td style="width: 33%; padding: 2px;">C: 講義内容が少なすぎる</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">D: 講義分扱教官が多すぎる</td> <td style="padding: 2px;">E: シラバスが統一されていない</td> <td style="padding: 2px;">F: シナリオが複雑すぎる</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">G: シナリオが単純すぎる</td> <td style="padding: 2px;">H: もっと授業時間を増やして欲しい</td> <td style="padding: 2px;">I: もっと実習時間を増やして欲しい</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">J: 現行より早い時期に開講して欲しい</td> <td style="padding: 2px;">K: もっと遅い時期に開講して欲しい</td> <td></td> </tr> </table>	A: 講義の内容がばらばらである	B: 講義内容に重複がある	C: 講義内容が少なすぎる	D: 講義分扱教官が多すぎる	E: シラバスが統一されていない	F: シナリオが複雑すぎる	G: シナリオが単純すぎる	H: もっと授業時間を増やして欲しい	I: もっと実習時間を増やして欲しい	J: 現行より早い時期に開講して欲しい	K: もっと遅い時期に開講して欲しい	
A: 講義の内容がばらばらである	B: 講義内容に重複がある	C: 講義内容が少なすぎる										
D: 講義分扱教官が多すぎる	E: シラバスが統一されていない	F: シナリオが複雑すぎる										
G: シナリオが単純すぎる	H: もっと授業時間を増やして欲しい	I: もっと実習時間を増やして欲しい										
J: 現行より早い時期に開講して欲しい	K: もっと遅い時期に開講して欲しい											

2-3. この授業科目について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

2-4. この授業科目について、よかったと思うことを書いて下さい。

※このアンケートと成績は関係ありません。

学生による授業評価アンケートⅡ（実習科目）

※5桁の場合は左づめて記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏名	
----	--

授業科目名	
-------	--

〔注意事項〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHＢの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) 〃の枠をはみ出さないようにめりつぶして下さい。

良い例	<input type="checkbox"/>	悪い例	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-----	--------------------------	-----	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

※ 学 籍 番 号									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

1. この実習に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高	やや高い	中	やや低い	低
	い	い	間	い	い
1) 実習に対する出席の程度	5	4	3	2	1
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	5	4	3	2	1
3) 実習内容の修得、理解度	5	4	3	2	1

2-1. この実習全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高	やや高い	中	やや低い	低
	い	い	間	い	い
1) この実習に対する総合的満足度	5	4	3	2	1
2) あなたが感じたこの実習の重要性の程度	5	4	3	2	1
3) 実習内容に対して抱いた興味の種類	5	4	3	2	1
4) 実習の編成や内容における一貫性、統合性の程度	5	4	3	2	1
5) 実習の工夫、実習書や配布資料の活用・有効性の程度	5	4	3	2	1
6) この実習に対する配分時間の妥当性	5	4	3	2	1
7) 実習環境の充実性	5	4	3	2	1

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。	
A: 学習要項(シラバス)と実習の内容が一致していない	B: 実習内容が多すぎる
C: 実習時間が多すぎる	D: もっと実習時間を増やして欲しい
E: 現行より早い時期に開講して欲しい	F: もっと遅い時期に開講して欲しい
G: もっと指導教官を増やして欲しい	H: 実習書が分かりにくい
I: 機材が不足している	J: グループの人数が多すぎる

2-3. この実習について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。	

2-4. この実習について、よかったと思うことを書いて下さい。	

資料6 教員、授業科目別アンケート集計様式(レーダーチャート)

教員、授業科目別アンケート
レーダーチャート表

学生による授業評価アンケート

大学教育委員会委員長

教員氏名
授業科目
科目の属する学部

実施日 平成19年 月 日 曜日 校時 対象学生数 /

